

# 学 内 広 報

for communication across the UT



特集： ■安全なフィールドワークのために  
～野外活動における安全衛生管理・事故防止指針 第2版発行!～  
■高校生のためのオープンキャンパス 2010 開催

2010.8.25

No. 1402

# 特集

## 安全なフィールドワークのために

～ 野外活動における安全衛生管理・事故防止指針 第2版発行! ～

今回の特集では、「野外活動における安全衛生管理・事故防止指針 第2版」が発行されたことを受け、その概要を掲載致します。また、ダイジェスト版としてこの記事を利用することもできますので、野外での調査活動を行う際にはぜひ参考に見て下さい。

### どんな本？何に使うの？

大学では、しばしば野外での研究教育活動が行われています。これはそんなときのための本です。どんなことを準備して、どんなことに気をつければいいのか、そして事故が起こったときにはどうすればいいのかについて記載されています。また、大学に提出する書類や規則等も網羅しているため、東大構成員が野外活動を行う際には最適な冊子であると言えます。

### 【第1版との違いは？】

山・河川・海・船舶での活動の際の装備や注意点について、より詳細に記載しています。また、危険・有害な動植物への対応についてのページも4倍程度増加しています。加えて、救急処置や医学的知識に関する記事についても、最新の知見に基づいて、改訂を行っています。

### 野外活動 における

安全衛生管理・事故防止指針

第2版

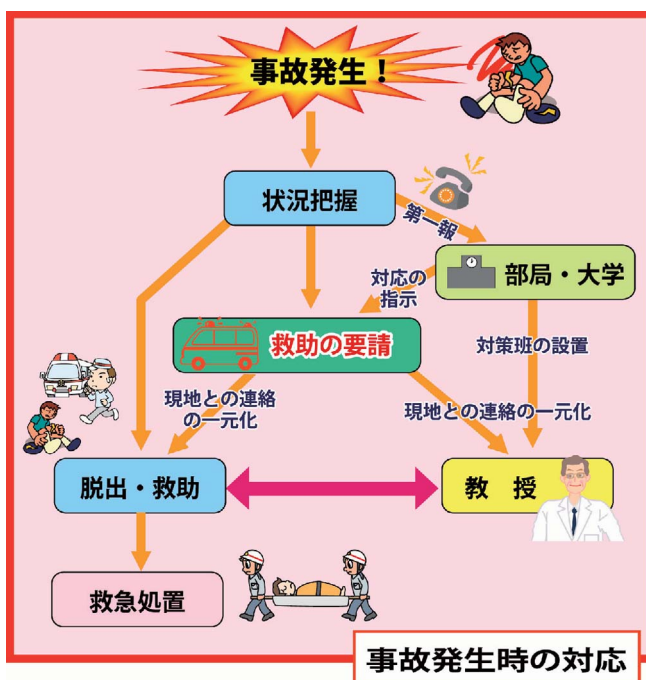


東京大学環境安全本部

フィールドワーク事故災害対策WG 編

欲しい方は部局の  
環境安全管理室まで！

### もし事故が発生したら？



1. まずは落ち着いて正確に状況把握をしましょう！
2. 次に可能であれば危険な状態から離脱し、自身の安全を確保して下さい。救助等は無理をせず、救援を待ちましょう。
3. 大学に連絡し、また周囲や関係者に救助要請しましょう。
4. 可能であれば、被災者を安全な場所に移動・搬送し、必要に応じて応急処置 (p.3、4参照) をして下さい。その場所が危険でなければ移動させる必要はありません。必要な場合は119番へ連絡し、救急車を要請して下さい。

## 危険・有害な動植物への対応

### 【スズメバチ】



全国的に生息しています。4月頃から活動が報告され始め、特に7月～10月に刺傷被害が増加しています。

速く動くものに反応するため、手で振り払おうとしたり、走って逃げるのは危険です。

スズメバチが近付いてきたら、落ち着いて静かにその場を離れるように心がけましょう。

#### もしハチに刺されたときは？

1. ポイズンリムーバーまたは口でハチ毒を吸い出し、局部をよく洗いましょう。
2. 抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗布しましょう。
3. 刺されたあとは最低30分以上は安静にし、アナフィラキシー症状（全身性の皮膚の紅斑、呼吸苦悶など）が出ないか様子を見て下さい！



ポイズンリムーバーの例

\* ミツバチに刺されたときは、ハチの針が刺入部に残るため、まず針を除去することが必要です。

#### ハチに刺されないためには？

ハチは黒や黄色のものによってくる習性があるため、ハチ刺傷が生じやすい春後半から秋にかけての野外活動では、黒色や黄色の服装は避け、白色調の服を着用すると効果的です。

### 【マムシ】

沖縄以外の日本全国に生息しています。平地から山地帯に広く生息し、川や水田の畦などでよく見かけます。基本的には夜行性ですが、曇りや雨の日には日中活動することもあります。

もし咬まれたら、マムシ毒抗血清を投与してもらう必要があります。またマムシは複数回咬もうとするので、咬まれたらすぐにマムシから逃げましょう。



#### ヘビに咬まれないためには？

ヘビの生息していそうな場所に行くときは、素手やサンダルは厳禁です！  
また、もしヘビを見つけたら、近づかず、体を動かさずに静かにヘビが去るのを待ちましょう。

### 【ヤマビル】



北海道以外の全国に生息しています。  
ヒルに吸血された際には、吸血時に注入されるヒルジンにより傷口から大量に出血することがあるため、傷をしっかり圧迫保護して下さい。ヒルは無理にはがさず、ライターの火であぶるか、防水スプレーを吹きかけましょう。傷は、水でよく洗い、消毒した後で、抗生物質入りステロイド軟膏を塗って下さい。

#### ヒルに吸われないためには？

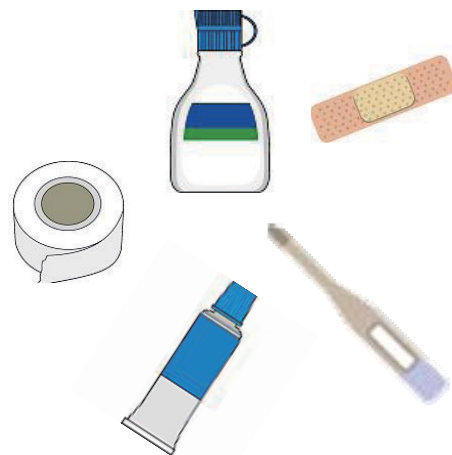
ヤマビルが生息する山林などに入るときは、皮膚の露出を避けるほか、襟元や袖口、ズボンの裾などからヒルが入らないよう、隙間を出来るだけ開けないように心がけて下さい。

## 救急処置と野外で必要な医学的知識

野外活動中に人身事故が発生した時には、適切に対応できるように普段から心がけておきましょう。特に早急に医療機関を受診すべきか否かの判断を身につけておくことが重要です。

### 【携帯すべき救急用品】

- 1) ヨードホルム系消毒薬（イソジン消毒薬など）
- 2) 過酸化水素系消毒薬（オキシフル消毒薬、ピロゾン消毒薬など）
- 3) 清潔なガーゼ（袋を開封していないもの）
- 4) 絆創膏（大小の複数サイズを用意すること）
- 5) 包帯
- 6) 弾性包帯（捻挫などのときに関節固定のため）
- 7) ゴム手袋、プラスチック手袋（負傷者の出血の処置などのため）
- 8) 体温計
- 9) 湿布薬、消炎剤軟膏
- 10) 抗ヒスタミン系軟膏（虫刺されなどのため）
- 11) ステロイド系軟膏（かぶれなどのため）
- 12) 抗生剤軟膏



### 【切創を負った時の対応】

#### 切創の観察と医療機関受診の判断

##### 重要チェックポイント！

- 1) 創が皮膚の下まで(皮下脂肪組織まで)達していますか？
- 2) 出血が多いですか？
- 3) 創内に土やガラス片などの異物が残っていませんか？

左記の3点いずれかもしくは複数に当てはまる場合は、出来るだけ早期に医療機関を受診して下さい。

切創の深さが皮膚表面でとどまっており、創内に異物もなく、出血が絆創膏やガーゼをあてただけで止まる場合は、清潔な水で創をよく洗い、よく消毒すれば、とりあえずそのまま様子を見てもかまいません。

ただし、創の痛みが持続したり、痛みが強くなった、周囲が赤く腫れてきた場合には、細菌感染が疑われるため、必ず医療機関を受診して下さい。

#### 消毒

創を負った際には、可能であれば清潔な水で創をよく洗いましょう。洗浄するときには創内の泥などの異物をよく洗い流すようにして下さい。

ただし、出血が激しいときには、洗浄すると出血がひどくなることもあるので、不用意に洗浄しないようにしましょう。

- ◆ 清潔なガーゼにヨードホルム系消毒液をつけて、創を軽く拭くか、創に直接かけて下さい。
- ◆ 創が泥や土で汚れているときは、過酸化水素系消毒液でまず消毒し、その後清潔な水で創をよく洗い、最後にヨードホルム系消毒液をつけて下さい。

## 止血法

出血している場合、**直接圧迫**→**間接圧迫**→**止血帯**の順で止血を行って下さい。

### ◆直接圧迫法

ガーゼやハンカチで出血する部位を直接圧迫する方法です。直接圧迫で多くの出血は止まります。ただし、動脈からの出血の場合、30分程度圧迫することが必要なこともあります。

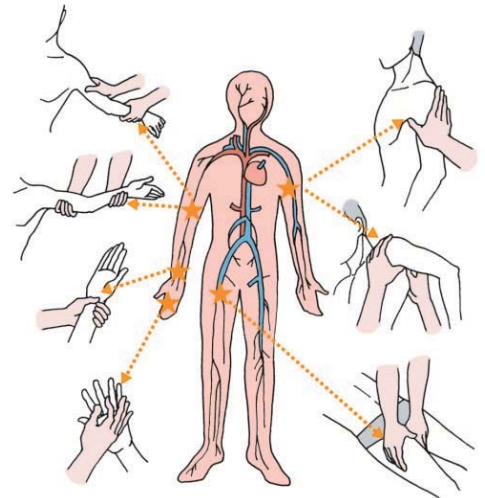
### ◆間接圧迫法

傷口から心臓に近い動脈を圧迫する方法です。直接圧迫で出血が止まらない場合、直接圧迫ができない場合、もしくは直接圧迫を行いつつ止血が完全でない場合に行います。

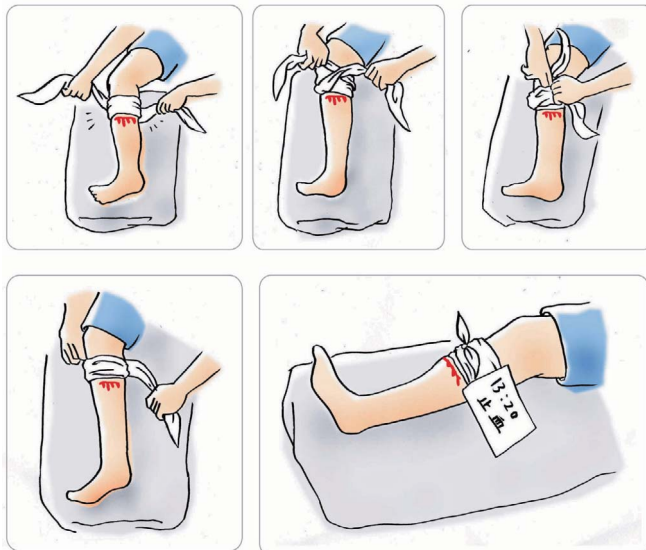
### ◆止血帯法

手足の大出血で上記の2つの方法では出血が止まらない場合にのみ行う、傷口から心臓に近い側約3～5cmの部位を縛って止血する方法です。

\*手足の組織が壊死してしまうため、止血の時刻を記入し、30分に1回止血帯を緩めて下さい。



間接圧迫法

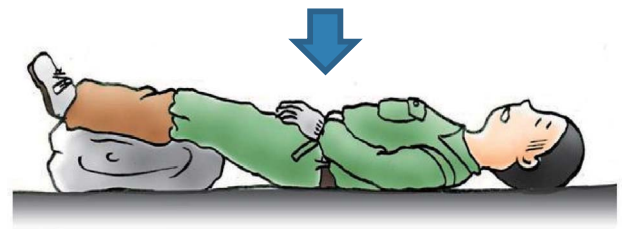


止血帯による止血法

### 注意事項

大量に出血し、顔面が蒼白になり、意識がぼんやりして生あくびなどをしたら**出血性ショック**が疑われます。

その時はこの体勢に！



ショック時の体位(脳に血液が行きやすいようにする)

## 【熱中症に対する対応】

### 熱中症にならないために

- 1) 暑く風通しの悪い状況下では作業を中止するか、または適度な休息をとって下さい。
- 2) 水分と塩分を適度に補給して下さい。
- 3) 通気の良い衣服及び帽子を着用して下さい。
- 4) 睡眠不足、二日酔い、疲労など体調不良の場合には作業をひかえて下さい。

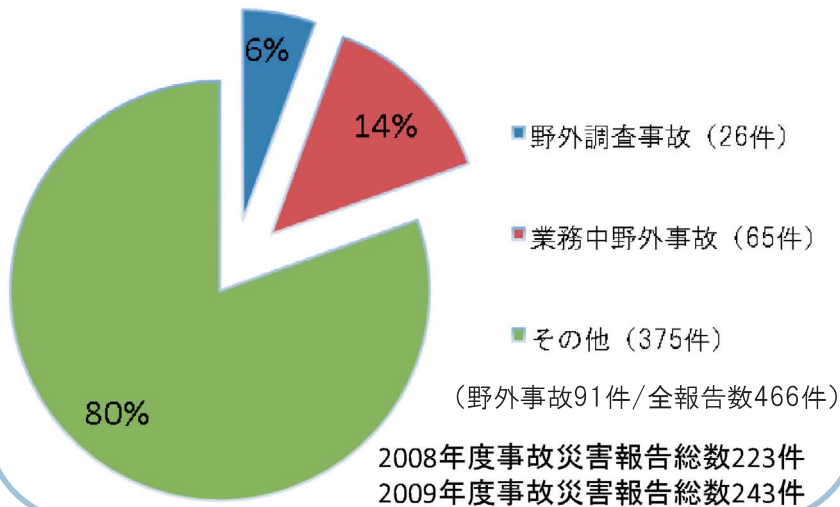
### もし熱中症になったら？

涼しい風通しのよいところで安静にさせ、うすい食塩水(スポーツドリンクなどでも可)を摂取させましょう。ただし、全身性の痙攣や、意識障害、四肢の伸展硬直などを示した場合は特に重症であるので、できるだけ速やかに医療機関に搬送して下さい。

# 過去の野外事例と本学の野外事例分析結果

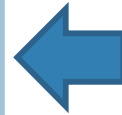
## 【本学における野外事例の傾向】

2008-09年度事故災害報告に占める野外での事故件数



過去2年間の事故災害報告を基に、野外で発生した事故の割合やその要因を分析してみました。

### 野外での事故は意外と多い?!



過去2年間に報告された事故事例のうち、**約20%**が野外での事故です。

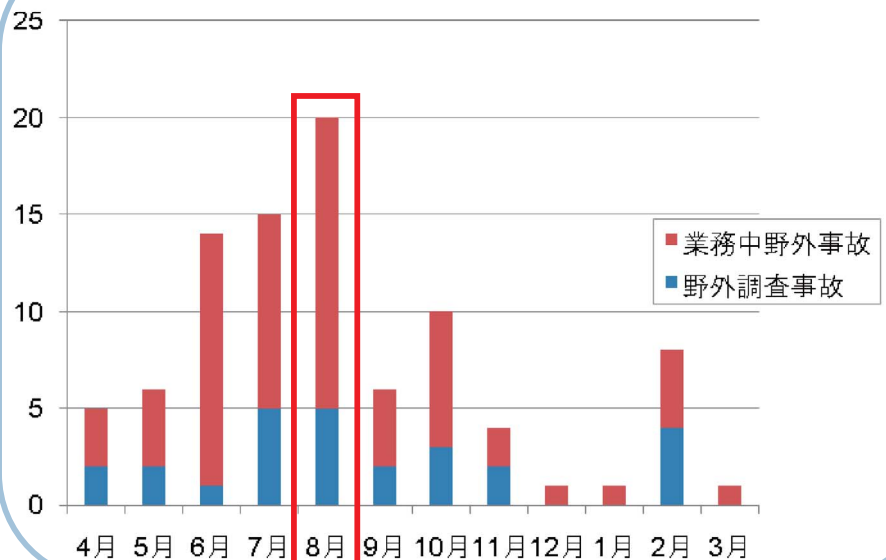
野外調査中の事故は全体の6%と割合としては多くはありませんが、特に夏(6~8月)に多く発生しています。

### 夏は特に野外での事故が多い

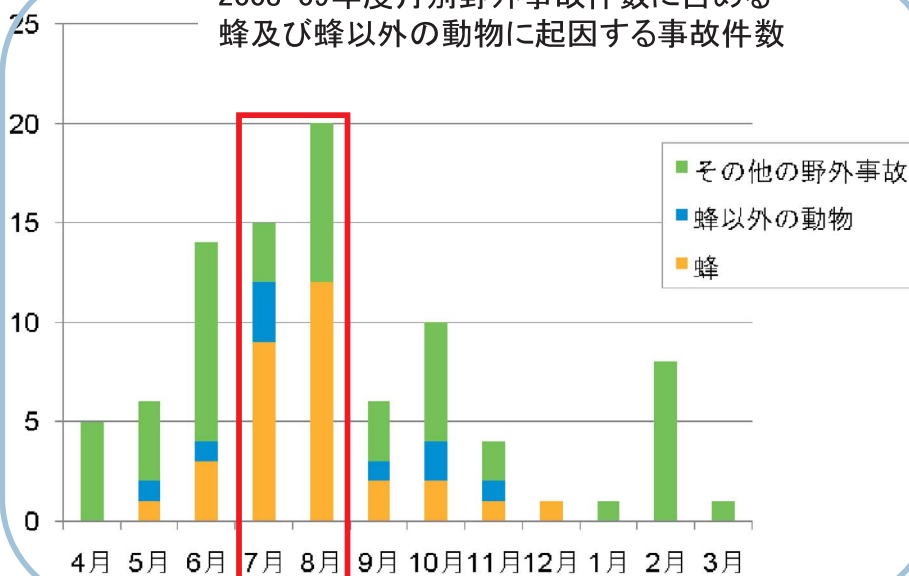
中でも、8月は1年のうち最も多く、野外事例が発生しています。



2008-09年度月別野外事例件数



2008-09年度月別野外事例件数に占める蜂及び蜂以外の動物に起因する事故件数

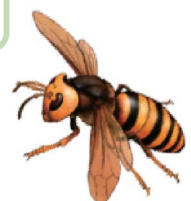


### 特にハチ刺されに注意!

野外事例のうち、最も多いのは**ハチ刺され**による事故です。

夏には特に増加するため、夏季に野外で活動する際には十分気をつけましょう!

近づき過ぎると刺しちゃうよ



## 【関連する野外での過去の事故事例】

野外活動は、研究室や実験室、コンピューターを用いた作業では得られない、貴重な成果をもたらしてくれます。しかしその反面、地理的要因や気候条件、更には危険・有害な動植物との接触など、様々なリスクが存在し、時として重大な事故になることもあります。

この冊子には東京大学以外の事故例も含め、以下のような野外での事故事例が多数掲載されています。調査の際には、このような事故も起こり得ることを念頭において、適切な準備をして下さい。

### ● 山中でのハブ咬傷



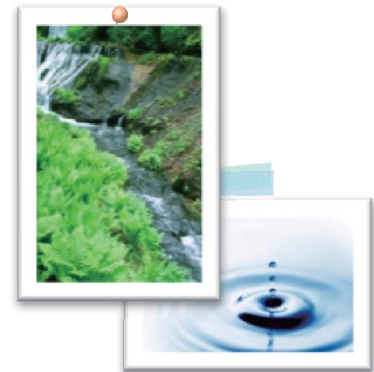
奄美大島で、夜間の生態調査を行っていた研究員が、斜面を登るため、樹木に手をかけたところ、動物に噛まれたような痛みを感じた。動物の特定はその後の処置に必要となるため、数分間探したが見つけることが出来なかったため、速やかに自動車で下山し、携帯電話が通じる場所で救急車の手配を行った、その間、粘着テープで手首を縛り、傷口から口で毒を吸い出した。その後、病院で咬傷部分の切開を行い、3日後に退院した。

診断の結果、手を噛んだ動物はハブと推測されるが、連絡方法の事前確認、適切な対処法の習得、冷静な行動などにより、軽傷で済んだと思われる。

### ● 河川での落水による死亡事故(他大学の事例)

川岸の岩場で試料採取の実習中に、学生が落水し、あがって来られず溺死した。

学生は胴長靴を履いていたが、胴長靴は落水の場合、水が入ってしまう危険がある。適切な装備の重要性を示す事故である。



### ● 学術研究船の海中転落事故

出航後、海洋観測作業を実施した後、乗船研究者1名が、夜間に船酔いし気分が悪くなったため、甲板に出て、舷側から嘔吐するために身を乗り出していたところ、海中に落ちた。次の作業海域に向かう途中、乗船研究員が乗船研究者1名が所在不明になっていることに気付いた。所在がつかめないため、海中転落の可能性が高いと判断し、船内捜索を継続するとともに反転して海面捜索を開始した。また、これと前後して、海洋研究開発機構と海上保安庁へ通報を行った。約2時間後、転落者を発見し船上に収容した。転落者は意識があり、ライフジャケットを着用していた。救難ヘリにて搬送し、診察を受けた。

夜間、1人で甲板に出たことに最大の問題がある。船酔いで嘔吐する場合にはトイレを使用し、もしも、気分が悪く外の空気を吸いたい時には、必ず他の者に声をかけ同行してもらう必要があった。ライフジャケットを着用していたことが不幸中の幸いであった。

「野外活動における安全衛生管理・事故防止指針」から危険・有害な動植物や事故の際の応急対応等について抜粋してみましたがいかがだったでしょうか？平成17年に本学で発生した潜水死亡事故を受けて設立された環境安全本部で、野外活動に従事する教職員が議論を重ね、発行されたのが、この冊子です。野外活動をされる場合は、ぜひこの冊子を熟読し、安全で健康的な野外活動を行っていただけたら幸いです。

<問合せ先> 本部 環境安全衛生部 環境安全課 安全企画チーム  
mail : [kankyoanzenkikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kankyoanzenkikaku@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)  
内線 : 21051



8/4(水)  
本郷地区  
キャンパス

## 工学部

はやぶさが武田先端知ビルにやってきた！



小惑星探査機「はやぶさ」が7年の宇宙飛行を終え、無事に帰還しました。工学部では宇宙科学研究所(JAXA/ISAS)ならびに関連の大学院専攻の協力により、「はやぶさ」に使われた技術や、関連する東大の最先端研究を紹介する講演会と展示が武田先端知ビルにて行われました。



## 特集 高校生のための オープンキャンパス 2010. 開催！

夏といえば、オープンキャンパス！ 今年も8月4日(本郷)・5日(駒場)の2日間、全国の高校生たちが東大にやってきました。じりじりと照りつける強烈な日差しなどもともせず、高校生たちは様々な企画に目を輝かせていました。恒例のオープンキャンパス特集、お楽しみください。



世田谷区からやってきた私立女子高校生4人組は理学部1号館前で、ひと休み中。「東大のキャンパスって、こんなに広かったの?! 地図を見ても道がわからなーい」と叫んでおりました

## 史料編纂所

史料編纂所では、「洛中洛外図屏風」(復元模写)を展示しました。戦国時代の京都の景観が精緻に描き込まれ、黄金の雲が

輝く美しい屏風です。史料編纂所では江戸時代に写された模本をもとにして、高い技術で復元模写をしています。

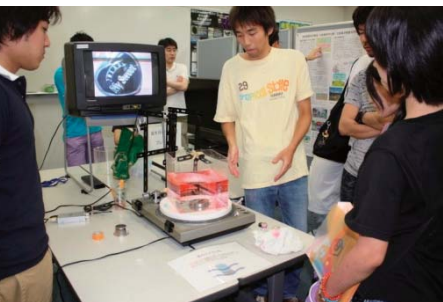




## 理学部

幹、基、気、きになるリガク。  
理学の魅力を実感しよう！

鮮やかなピンクのTシャツと共に太陽に負けない活気で、4,100名の来場者を迎えました。地球惑星物理学科には南極の氷があったり、生物化学科ではねずみがくくんしていたり、学生達が工夫をこらしてわかりやすく研究を紹介。高校生も熱心に耳を傾けていました。女の子の可愛い笑い声が聞こえてきたのは「リガクル♡ミラクル-女子中高生のための相談コーナー」。楽しい雰囲気の中で現役の女子学生が相談に乗りました。オープンキャンパスの新企画として、教員の経験をもとにした講演会「学部・学科はどうやって選ぶ？理学部にしかできないこと」が行われ、理学部はどのようなところ？という中高生の疑問に答えました。



福岡からやってきた元気な男子は全員理系。「理学部のダークエネルギーの話、すごかった！」とのこと

## 文学部

特別プログラム「かるたで楽習！東アジア！」では、参加者もオリジナルのかるたを作りました。

初めて食べた水戸黄門ラーメン



## 医学部

模擬講義のあと医学図書館所蔵資料の見学を行いました。「解体新書」や昔の臨床講義風景の写真等貴重な資料が並びました。



## 総合図書館

小泉八雲や正岡子規など東大ゆかりの文人の著作・業績が展示されました。常設のショパンの左手と自分の手を比べる来館者が多くいました。



兵庫県から来た高校1年生。「東大ってつまらなそうな気がしてたけど、実際に来てみると、楽しそうー！ 3人で教育学部の模擬講義を見てきました。将来は教師になりたいの」と語ってくれました

## キャンパスツアー

東大生が本郷キャンパスの様々な見どころを紹介していくキャンパスツアー。今年も多数の高校生が参加しておりました。赤門そばのツアー受付は大賑わいでした。



## 女子学生コース

情報学環・福武ホールで行われた「女子学生コース」。参加した女子高校生たちは、皆、社会で華々しく活躍している東大OGの話に、真剣に聞き入っていました。



## 東大ガイダンス

東大生による「東大ガイダンス」のメイン企画はフリートーク。下の写真のようなプレゼンの後、東大生1人と高校生3人が、ひと組となって、様々なトークを繰り広げていました。



## 農学部

弥生講堂での3つの模擬授業と13の研究室見学を実施。食べ物の話、動物医療の話、バイオ実習の話、植物細胞の話など、農学に対する興味を喚起する企画が目白押し。



## 8/5(木) 駒場地区キャンパス



岩手からひとりでやってきた男子。理系の企画にいたく感激!

### 東洋文化研究所

BGMがアジア各地の経典というBuddha's caféではアジアの飲み物と共に仏教に親しむことができました。



8月5日(木)には駒場地区でオープンキャンパスが開催されました。駒場地区のオープンキャンパスは、教養学部・総合文化研究科を中心に、数理科学研究科、生産技術研究所(生産研)と先端科学技術研究センター(先端研)の4部局で企画されました。インターネットでの事前登録では、申込みを開始後1時間半で受入定員をオーバーし、登録申込を早々に締め切らなければならぬほどの人気でした。当日は朝から晴れ渡り、日中の最高気温は34度にも達するという猛暑の中のオープンキャンパスとなりましたが、事前登録および当日受付を含めた参加者総数は過去最高の2,915名を記録しました。駒場地区総合受付が設置された駒場 I キャンパス正門には、午前8時前に行列ができて始め、9時30分の受付開始を前倒して、8時50分に受付をスタートさせました。午前中は、教養学部の大教室を使って主企画であるキャンパス紹介が行われまし

た。今年は初めて、メイン会場の紹介の模様を、遠隔講義システムを用いて他会場に中継しました。午前中の最後には、総合文化研究科教員による2つの総合講演が実施されました。昼休みの後、8つの「高校生のための講義」が開講され、多くの高校生が熱心に講義に聴き入っていました。また、4つの実験デモ(物理実験、化学実験、生物実験、低温実験)を午前中から開催しましたが、開始前から長蛇の列が出来る程の人気ぶりでした。午前、午後を通じて、駒場博物館、駒場図書館、情報教育棟、および生産研、先端研の各施設における施設見学、ガイドツアー、特別企画等が並行して実施され、たくさんの高校生でにぎわっていました。特に、現役東大生の先輩たちとの質問コーナーでは、受験勉強やキャンパス生活について、高校生が先輩たちと熱心に話し込んでいた姿がとても印象的でした。



### 地震研究所

大地震だけでなく、火山や海底など地球をまるごと研究する地震研究所。学生が解説をする学生実験や、研究所内を案内するラボツアーが行われました。縦波、横波、どっちがはやく伝わるのかな?一目了然です(写真左下)。地球を映し出す半球型のスクリーンはオープンキャンパスのためだけに開発されました。地球規模で波が伝わる様子がよくわかります(右上)。震度ってどうやって測るの?簡単にできる震度計測法を紹介しました(右中)。切腹してお金をざくざく放出するナマズです。安政江戸地震後のにわか好景気のときに描かれました(右下)。



埼玉県から来た高校2年生。理学部企画、文学部企画、東大ガイダンスを見たとのこと。「これからキャンパスツアーなんです。楽しみ!」と笑顔でピース



今年の参加者は、本郷約10,000名、駒場約3,000名!昨年よりも4,000名近く増えました。皆様、暑い中お疲れさまでした。ご協力ありがとうございました!



マンホールを撮ると東大に受かるって聞いたケロ。ほんとかな?

かえるマークのマンホール

# NEWS

## 一般ニュース

### 本部学生支援課

### 軟式野球部、東京六大学春季リーグ 戦二連覇達成



### 江崎玲於奈賞受賞

大学院工学系研究科・工学部 藤田誠教授が、第7回江崎玲於奈賞の受賞者に決定しました。

江崎玲於奈賞は、日本国内の研究機関においてナノサイエンスあるいはナノテクノロジーに関する研究に携わり、世界的に評価を受ける顕著な研究業績を挙げた研究者に対して授与されるものです。

### 藤田誠 大学院工学系研究科・工学部 教授

〈研究主題〉

自己組織化によるナノ構造物質創成の先駆的研究

〈研究内容〉

ナノメートル級の有機分子とPdなどの金属イオンを液中で混ぜると、両者は配位結合するが、金属イオンに結合する有機分子との角度や数が規定されるため、特定構造を持つナノ物質が自然に形成される。藤田教授は、このことを独創的な研究で実証し、分子やイオンの選択により、円筒形やかご形など多様なナノ構造が自己形成されることを示した。また、ナノ構造中の孤立空間に種々の物質を包み込み、特異な物性や新たな化学反応が実現できることを示し、ナノ科学とナノ技術分野に関する新研究領域を拓いた。

〈受賞のコメント〉

荣誉ある賞をいただくことができ、光栄に存じます。ナノテクノロジーへの化学からの貢献が認められ、たいへん嬉しく存じます。



6月4日(金)、好天に恵まれた戸田市営球場に多くのOB、OGが応援に駆けつけた中、本学運動会軟式野球部は東京六大学春季リーグの最終戦、対法政大学戦に勝利し、春季リーグ二連覇を達成した。

最終戦は6回まで三年生右腕の早瀬投手の力投で0-0とし、緊迫した状況が続いたが、その裏に均衡が破れ、相手のミスと二番西田のタイムリーヒットで2点を先制することに成功した。7回からは早瀬投手に代わり、二年生右腕の佐伯投手が粘りのピッチングを見せ、8回裏、東大は四番坂井選手のタイムリーヒット等で2点を追加し、続く9回も佐伯投手が冷静に抑え、4-0でゲームセットとなり、この瞬間、2年連続の本学の春季リーグ優勝が決定した。

今季リーグでは、本学軟式野球部は、個々の打撃力では他大学に劣っていたものの、バントやヒットエンドランなど小技を絡めた攻撃を軸とし、安定した内野守備に加え、投手陣の好投も光ったが、何より、チームの結束力や一勝にこだわる強いこだわりが一番の勝因として挙げられる。

本学から選出された表彰選手は以下の通りである。

- ・最優秀選手 緒方祐磨 (工学部四年)
- ・最多勝利投手 佐伯遼 (教養学部二年)
- ・最優秀防御率 佐伯遼 (教養学部二年)
- ・打点3位 西田朝輝 (法学部四年)
- ・盗塁王 緒方祐磨 (工学部四年)
- ・敢闘選手 谷口和矢 (工学部四年)
- ・ベストナイン (投手) 佐伯遼 (教養学部二年)

軟式野球部は8月8日(日)から岐阜県中津川市で開かれる第33回全日本大学軟式野球選手権大会に、東京六大学軟式野球連盟代表として出場する。初出場となった昨年の選手権大会では、初戦でサヨナラ負けという悔しい結果だったが、今年のチームは全国制覇を目標として、日々練習に励んでおり、昨年の雪辱を晴らすためにもチーム一丸となって上位進出を狙っている。



春季リーグ戦の様子



監督で最優秀選手、盗塁王の緒方



ベンチ前でのナインに対する出迎え

一般

本部国際企画課

「第7回プレジデント・カウンシル  
本会議」の開催

6月8日(火)ニューヨークにおいて第7回プレジデント・カウンシル本会議が開催された。プレジデント・カウンシルは、東京大学の国際的プレゼンスの向上をめざし、そのための包括的戦略の策定と行動指針に関わる助言、ガイダンス、および支援を仰ぐため、2006年11月

に総長の国際アドバイザーボードとして設置されたものである。これまで、ロンドン、ニューデリーで開催実績があり、海外での開催は3回目である。

本会議には、タイ王国チュラポーン王女殿下、黒川清氏(政策研究大学院大学教授)、ポール・ラウディシナ氏(ATカーニー会長)、カリ・レイビオ氏(ヘルシンキ大学名誉学長)、横山禎徳氏(社会システムデザイン研究所代表)、吉野洋太郎氏(ハーバード大学ビジネススクール名誉教授)らが出席。ヴァルタン・グレゴリアン氏(カーネギー財団理事長)とリタ・コルウェル氏(メリーランド大学、ジョンズ・ホプキンス大学特別栄誉教授)からのスピーチ、また今回お招きしたスワスマア大学チョップ学長の教養教育に関するスピーチなどを中心に、活発な議論が交わされた。本学からは、濱田純一総長を始め、田中明彦理事(副学長)、江川雅子理事、山影進総合文化研究科長・教養学部長が会議に参加し、石黒光監事がモデレータを務めた。

本会議前日の6月7日(月)には、本学卒業生、学術関係者、企業関係者をお招きし、レセプションが催され、150名以上の参加者があった。

なお、次回第8回プレジデント・カウンシルは、本会議が柏キャンパスにおいて11月19日(金)に、レセプションが本郷キャンパスにて11月18日(木)に開催される予定である。



第7回プレジデント・カウンシル本会議の様子



大勢の参加者で賑わったニューヨークでのレセプション



## 第12回日本水大賞国際貢献賞を受賞

このたび、WCRP（世界気候研究計画）/GEWEX（全球エネルギー・水循環実験）/CEOP（Coordinated Energy and Water Cycle Observation Project：通称セオップ。「地球エネルギー・水循環統合観測プロジェクト」のICB（国際調整部会）が、第12回日本水大賞国際貢献賞を受賞した。CEOPは、小池俊雄教授（EDITORIA、工学系研究科）が、2001年よりLead Scientist（のちに共同議長）を務めている国際プロジェクトであり、世界で初めて、統合的な地球水循環観測体制の確立とデータセットの作成を推進している研究プロジェクトである。

この国際プロジェクトを円滑に推進するために結成されたのが、CEOP/ICB（CEOP国際調整部会）であり、本学の小池教授を代表として、東京大学（UT）、宇宙航空研究開発機構（JAMSTEC）、気象庁（JMA）の三機関からの相互協力によって成り立っており、2001年の発足以来、過去10年間にわたり、通算70回以上の会合を重ねてきた。

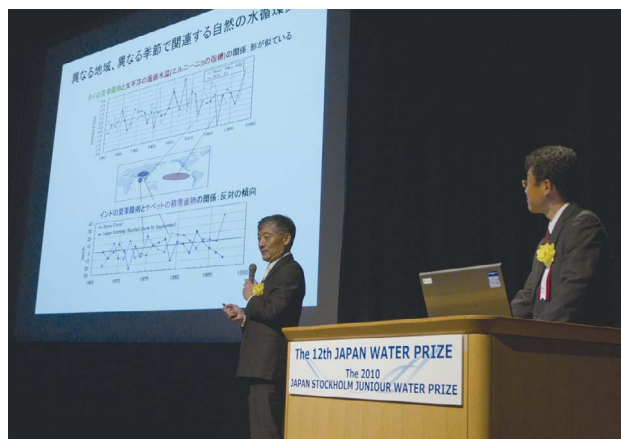
今回の受賞は、世界的に統合化された水循環に関する観測体制を継続・発展する基盤としての役割を、CEOP/ICBが担ってきたこと、CEOP/ICBが世界の水循環に関する国際共同プロジェクト推進の牽引役を果たしてきたこと、などが高く評価されたことによる。

日本水大賞受賞記念式典および受賞活動発表会は、7月1日（木）、東京都渋谷区にある国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われ、式典には、日本水大賞委員会の名誉総裁であられる、秋篠宮文仁親王殿下、ならびに、同妃殿下の紀子さまもご列席になられた。まず、日本水大賞委員会委員長である宇宙飛行士の毛利衛日本科学未来館長から全体の講評があり、その後、秋篠宮殿下より、受賞者へのお祝いのお言葉があった。表彰式では、ICB代表の小池教授と同代表代理の石田中氏（JAXAアジア推進室長）が登壇し、毛利委員長から表彰状および副賞が手渡された。

式典後の活動報告会では、同委員会の虫明功臣副委員長（本学名誉教授）から、各受賞活動の審査の講評をいただき、各賞の活動発表が行われた。全国津々浦々より集まった受賞団体によるそれぞれの活動や研究は、すべて人々の暮らしと水資源、水管理に関わるたいへん貴重な取り組みであり、お互いの発表に興味深く聴き入り、終始たいへん和やかな雰囲気の中で、記念式典が終了した。



表彰状受賞の場面  
（右：毛利委員長、中央：小池教授、左：石田氏）



活動報告を行う小池教授と玉川勝徳特任研究員（工学系研究科）  
プレゼンテーションタイトル：  
「地球水循環統合観測と利用実証の推進」



CEOP/ICBのメンバーたち



## 海洋アライアンス

### 海洋アライアンスと（財）環日本海環境協力センターとのインターンシップ協定締結

7月5日（月）、富山県庁において、本学海洋アライアンスと（財）環日本海環境協力センター（Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center：NPEC）は、海洋法や海洋政策を学ぶ大学院生のインターンシップ実習を実施する協定を締結した。協定書の調印式には、本学海洋アライアンスの浦環機構長、木村伸吾副機構長、高橋鉄哉特任講師、NPECの三田哲朗専務理

事、田中紀彦 CEARAC<sup>※</sup> 所長らが出席した。また、調印式に先立ち、石井隆一富山県知事への表敬訪問が行われた。

本学海洋アライアンスでは、昨年度より、社会科学・自然科学・工学を横断する問題解決志向型の「海洋学際教育プログラム」を実施している。本プログラムの一環として、海洋アライアンスに所属する文理各研究科の大学院生を政府機関や国際機関へ派遣して、海洋法・海洋政策の立案過程を体験させるインターンシップ実習を行っている。昨年度は、国土交通省総合政策局との間に協定を締結して12名の現地演習を行い、その他、水産庁などの政策立案機関に9名の学生の現地演習を行った。

本年度、NPEC への派遣予定の大学院生は5名程度であり、NOWPAP<sup>※</sup>参加各国の政府代表者及び専門家で構成される CEARAC フォーカルポイント会議や、国内の生物多様性や海洋環境評価に関する専門家によって構成される生物多様性海洋環境評価検討委員会などの国際・国内会議に参加して、準備・運営・取りまとめまでの一連のプロセスを経験する予定である。

※北西太平洋地域海行動計画特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター(NOWPAP/Special Monitoring & Coastal Environmental Assessment Regional Activity Center : CEARAC)

北西太平洋地域海行動計画 (North-west Pacific Action Plan : NOWPAP)



協定書を取り交わす海洋アライアンス・浦機構長(左)とNPEC・田中所長(右)



調印式の前行われた石井隆一富山県知事への表敬訪問

#### 本部環境安全課

#### 「安全講演会」、開催される

一般

東京大学安全の日講演会が、「組織の安全文化の構築のために何をすべきか」をテーマにして、7月6日(火)本郷キャンパス鉄門記念講堂において開催され、学内外から約250人が参加した。

八丈島にて農学生命科学研究科の山下高広氏が潜水作業中に殉職する事故が発生してから本年7月4日で5年となる。本学ではこの7月4日を東京大学安全の日と定めており、事故の記憶を風化させることなく、教育研究活動における安全衛生の向上、事故災害の発生防止、安全意識の向上、安全文化の定着に取り組むことを改めて決意する日としている。

冒頭、濱田純一総長より「安全文化の構築を目指しての組織的な取り組みは、大学の幹部から第一線の教職員や学生まで徹底されるべきものである。さらに東京大学という立場は、ただ教育研究そのもので他の大学の見本となるというだけでなく、安全管理の面でも、諸大学の見本として行動することが期待されているものと考えている」との挨拶があった。

講演に先立ち、環境安全本部の大久保靖司安全衛生管理部長より、東京大学の事故統計(過去5年)の傾向と分析及び重大事故事例について報告された。

講演の第1部では、警察大学の樋口晴彦教授による「組織の安全文化構築における人間的側面からの課題」についての講演があり、昔は存在した現場の隅々にまで目を光らせる口うるさい“やかまし屋”の再生こそ事故対策の切り札になるということ、「理解できない相手が悪い」は禁句であることなどが、面白いエピソードを交えながら話され、興味深い内容であった。また第2部では大阪大学の山本仁教授より、大阪大学における安全管理の取り組みについて紹介がされ、本学医学部附属病院の軍神正隆救急部副部長より「東大病院における救急体制と応急処置について」の講演が行われた。



開会の挨拶をされる濱田総長



熱心に聴講する参加者

本部環境安全課

「総長による安全衛生パトロール」  
実施される

一般

7月8日(木)、濱田純一総長が山田一郎副学長(環境安全本部長)等と安全衛生パトロールを実施した。北森武彦工学系研究科長、近山隆工学系副研究科長、萩谷昌己情報理工学系研究科長、石塚満情報理工学系副研究科長、中尾政之工学系等環境安全管理室長等による説明を受け、工学部列品館、2号館、5号館、8号館を巡視した。

総長によるパトロールの目的は、本学の安全衛生に対する姿勢を自ら示すことにある。

当日は、研究室、工房等の担当教員から研究内容等の説明を受けた後、実験機器の安全な使用、保護具の着用、薬品の管理状況や電気配線の状況等について現状を視察した。

加えて、転倒事故を契機にスリッパ防止対策を施した階段や防災センターなど安全対策に関係する場所も訪れて、工学系等の取り組みについて説明を受けた。

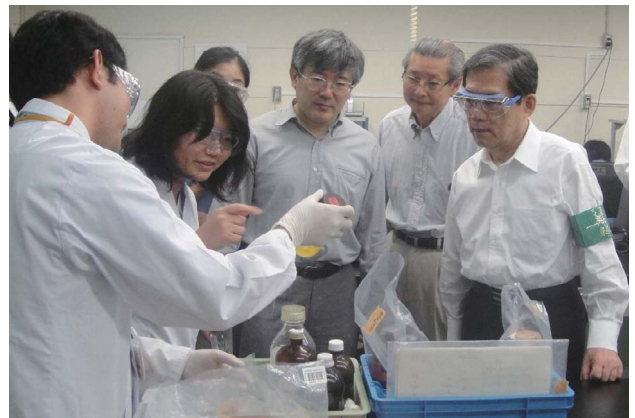
巡視後、濱田総長から「窮屈なスペースの中で安全を確保しなければならない状況であるが、各研究室ではよくやってくれていると感じた。全体的にとっても丁寧に取り組んでおり、仕組みとしては着実に前に進んでいる。今後とも緊張を緩めることなくしっかりと取り組んでほ

しい」との講評がなされた。

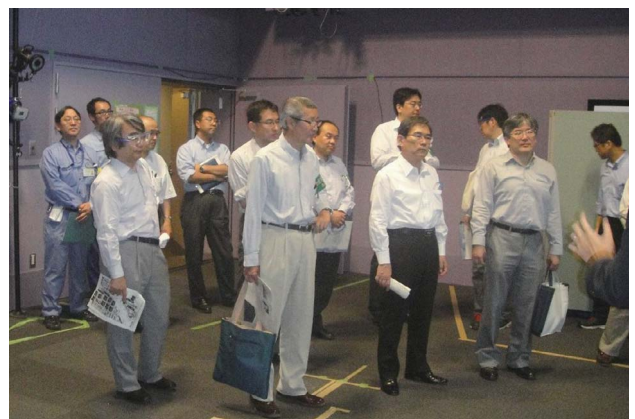
なお、各部局においても部局長による安全衛生パトロールが順次実施されており、安全衛生管理の普及と向上に取り組んでいる。



研究室を視察する様子



不明実験廃棄物処理活動の説明



安全対策と研究内容について説明を受ける様子

地球観測データ統合連携研究機構(EDITORIA)

第4回「データ統合・解析システム」  
(DIAS) フォーラムを開催

一般

7月14日(水)13時より17時30分まで、本郷キャンパス鉄門記念講堂にて、国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」の一翼を担う、「データ統合・解析システム」(DIAS)が、第4回DIASフォーラムを開催した。本フォーラムは、平成19年度より毎年1回夏の初めに

開催しており、今年度は、「地球観測と予測の統合知が拓く新たな社会づくり」と題して、これまでの研究成果を紹介するとともに、今後のDIASの展開方向などについて、公開討論を行った。

折しも、7月8日(木)に総合科学技術会議より発表された、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」では、その重点8分野のひとつとして、「地球観測情報を活用した社会インフラのグリーン化」が設定され、わが国が、「地球観測・予測・統合解析成果創出・その成果利用」の世界のハブになることを目指して、DIASの高度化・拡張を行うことが盛り込まれることとなった。このため、DIASに対する内外の評価と期待がより一層高まっている機運の中、このたびのフォーラムでは過去最高の253名の参加者数を記録することとなった。

本学地球観測データ統融合連携研究機構(EDITORIA)喜連川優機構長の司会で始まった開会式では、田中明彦理事(副学長)からご挨拶をいただき、続いて、文部科学省研究開発局、藤木完治局長より力強いご支援の約束と励ましのスピーチをいただいた。その後、総合科学技術会議の相澤益男議員の講演では、「平成23年度科学・技術重要施策アクション・プラン」について詳しく説明いただき、「データはイノベーションの宝庫である」という主旨の下に、わが国の科学・技術政策の中でDIASが担うべき役割と今後の発展方向を明確に示していただいた。



ご挨拶をなさる藤木完治局長



ご講演中の相澤益男議員

つづく第2セッションでは、DIASプロジェクト代表の小池俊雄教授(工学系研究科)による総括報告にはじまり、DIASの各研究コンポーネントから、現在までの研究成果について最先端の研究開発報告が行われた。第3セッションでは、DIASの各課題グループによるポスター発表があった。講堂の入り口ロビー付近と、14階の展望スペースの二か所が、ポスター会場として設定されており、中でも、小型地球模型「触れる地球」の展示を企画した溝口勝教授(農学生命科学研究科)を代表とする農業分野のグループの研究発表「安全な農作物生産管理技術トレーサビリティシステムの開発」については、その「触れる地球」に人気が集まり、ポスター会場は多くの観客による熱気に包まれ、大盛況であった。

プログラム後半の第4セッションでは、「次代のニーズとDIASへの期待」というテーマで、地球観測統融合データとの新たな連携利用分野として、健康・保健について渡辺知保教授(医学系研究科)から、都市について小池教授から、また地球規模の生物多様性について矢原徹一教授(九州大学大学院)から、それぞれの課題とDIASによる課題解決の方向性が示された。

第5セッションでは、新たなニーズに対してDIASがどう応えることができるのか?という問いに対して、有識者7名によるパネルディスカッションが展開された。パネリストとして、廣木謙三氏(内閣府政策統括官付参事官)、谷広太氏(文部科学省研究開発局推進官)、井上孝太郎氏(科学技術振興機構上席フェロー)、福田徹氏(宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター長)、淡路敏之教授(海洋研究開発機構地球情報研究センター長)、矢原徹一教授(九州大学大学院)、そして本学から、喜連川機構長、渡辺教授が登壇し、小池教授の司会で、地球規模の課題とその課題解決を担うDIASの役割と発展性について、パネラーと会場参加者の間で活発な議論が続いた。



パネルディスカッション

本DIASフォーラムについての詳しいご発表内容・詳細は、下記URLよりご覧いただけます。

<http://www.editoria.u-tokyo.ac.jp/dias/symposium/index.html>

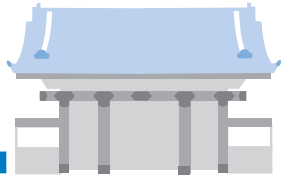
《お問い合わせ》EDITORIA事務局

editoria@editoria.u-tokyo.ac.jp

内線 26132



# 部局 ニュース



## 生産技術研究所

### 省エネ型都市交通システム「エコライド」第二次試験車両及び実験線御披露式を挙

4月22日(木)、生産技術研究所千葉実験所において、本研究所と泉陽興業株式会社、独立行政法人交通安全環境研究所、株式会社三菱総合研究所の共催による省エネ型都市交通システム「エコライド」の第二次試験車両及び実験線御披露式が挙

行された。エコライドは遊園地のジェットコースターの技術を活用し、軌道の高低差を利用して自然走行する世界初の画期的な公共交通システムである。

千葉実験所内の実験線は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託研究事業の一環として2008年11月に敷設された。2009年度からは経済産業省関東経済産業局の「平成21年度低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」に引き継がれ、この度、第二次試作車両が完成し、御披露式典の挙

行となった。当日は生憎の雨模様となったものの、式典には、経済産業省、国土交通省、千葉県、千葉県柏市、沖縄県与那原町、財団法人鉄道総合技術研究所からのご来賓をはじめ、100名のご列席があり、エコライドへの関心の高さが窺えた。式典では、本研究所の野城智也所長の挨拶から始まり、先進モビリティ研究センター長・千葉実験所長の須田義大教授による第二次試作車両と実験コースの説明、次いで国土交通省鉄道局技術企画課の北村不二夫課長よりエコライド開発への期待、与那原町の古堅國雄町長より地域への導入の期待、最後に泉陽興業の山田三郎取締役会長よりこれまでの研究開発への思いと実社会に貢献するエコライドを実現したいという期待についてご挨拶をいただいた。その後、テープカットが行われ、来賓の方々の試乗と懇談の場が持たれた。「ITS 実証実験モデル都市」である千葉県柏市でのケーススタディの展開などの期待の声が聞かれた。当日の様子はNHKテレビ首都圏ニュースやNHKラジオで報道された。



多くのご来賓が参列された中で行われた御披露式



ご来賓の試乗で第二次試作車両の完成を祝賀



今回お披露目した第二次試作車両(手前)

## 大学院総合文化研究科・教養学部

### 国際センター駒場オフィス開所式典が 挙

行される。国際センター駒場オフィスは、本年4月から、開所に向けての準備を行ってきたが、7月から本格的にオープンする運びとなった。7月1日(木)9時30分から駒場Iキャンパス・アドミニストレーション棟1階の新しいオフィスの前で開所式典が挙

行され、本学教職員を中心に約30名が出席した。山影進総合文化研究科長及び中埜良昭生産技術研究所副所長の挨拶、小島憲道国際センター長(理事・副学長)の祝辞の後、テープカットが執り行われた。

国際センター駒場オフィスは、国際本部が各キャンパスに設けた国際センターのオフィスの1つであり、本郷オフィス、柏オフィスとともに本学の国際交流に役立つオフィスを目指している。国際センター駒場オフィスは、駒場地区の4部局(大学院総合文化研究科・教養学部、

大学院数理科学研究科、生産技術研究所、先端科学技術研究センター)に所属する留学生と外国人研究員に対するワンストップサービスの提供等を行うことを主な目的として設立され、今後はグローバル30の学部及び大学院留学生(日本語能力が要求されない留学生)へのサービス拠点としての役割を担うことが大いに期待されている。

また、9月には駒場Ⅱキャンパスの連携研究棟内に国際センター駒場オフィス/駒Ⅱ支所がオープンすることになっており、留学生だけでなく、外国人研究員へのサービスについてもさらに充実することになる。



国際センター駒場オフィス・オープニングセレモニー。左から中野研究所長、大島利雄研究科長、小島理事(副学長)、山影研究科長、中埜副研究所長、古城佳子オフィス長



国際センター駒場オフィス

#### 医科学研究所

### 「第17回東アジアシンポジウム(in台北)」に参加

7月1日(木)~7月2日(金)の2日間、「第17回東アジアシンポジウム」が台湾にて開催され、東京大学医科学研究所(以下「東大医科研」)を含む6機関(国立台湾大学医学院生物化学分子生物学研究所、中国科学院上海生物化学細胞生物学研究所、ソウル大学分子生物学遺伝学研究所、韓国成均館大、京都大学ウイルス研究所、東大医科研)が参加した。東大医科研からは教員5名、博士課程大学院学生4名が参加し、教員はそれぞれ20分の口頭発表、学生は研究成果のポスター発表を行った。

本シンポジウムは、東アジアにおける医科学分野研究者間の交流を深め、より一層の連携を促進することを目的としている。また同時に、若手研究者に国際的な場で

成果発表をする機会を与えることで、若手研究者育成という点においても大変重要な役割を担っている。

今回は、本シンポジウムをご支援頂いている「トミー精工株式会社」から優秀若手発表者に贈られる恒例の「TOMY Award」に加え、主催側からもさらに3名の優秀若手発表者に賞が贈られた。東大医科研からは理学系研究科博士課程3年の伊藤健太郎さんがTOMY Awardの第2位を、新領域創成科学研究科博士課程3年の森祐介さんが主催者からの優秀若手発表者賞を受賞した。



参加者集合写真

#### 大学院理学系研究科・理学部

### 南米チリの首都サンチャゴにて東京大学 miniTAO 望遠鏡完成記念式典を開催

南米チリ北部アタカマ砂漠、チャナントール山頂(標高5640m)に、標高世界一となる東京大学アタカマ1m望遠鏡(miniTAO望遠鏡)が完成、観測を開始したことを記念し、7月7日(水)、南米チリの首都サンチャゴにて、記念式典が開催された。

miniTAO望遠鏡は、理学系研究科附属天文学教育研究センターを中心としたTAO(The University of Tokyo Atacama Observatory)研究グループがアタカマ砂漠の最高地点に設置した口径1mの赤外線望遠鏡で、同サイトに口径6.5m赤外線望遠鏡を設置しようとする計画の先駆けとなる望遠鏡である。

式典は、東京大学、チリ科学技術庁(CONICYT)、チリ外務省エネルギー科学技術局、在チリ日本国大使館の4機関合同で開催され、大統領府であるモネダ宮殿から歩いて5分の距離にある歴史的な建築物Club de la Unionの大広間で行われた。

日本からは、本学より松本洋一郎理事(副学長)、山田興一総長室顧問、相原博昭理学系副研究科長はじめ多数の教職員、文部科学省より磯田文雄研究振興局長、TAO計画に賛同する企業関係者などが出席、またチリからは、チリ科学技術庁(CONICYT)長官、チリ外務省局長、在チリ日本国大使などが出席し、総勢約140名が参加する盛大な式典となった。



歴史的建築物の大広間で開催された式典

厳かな雰囲気の中、松本理事（副学長）が主催者を代表して挨拶し、吉井讓天文学教育研究センター長がTAO計画を代表してminiTAO望遠鏡建設までの道のりや観測成果の紹介、将来計画である口径6.5mの大型赤外線望遠鏡の構想について説明し、チリの人々の友好に対して感謝を述べた。



主催者を代表して挨拶する松本理事（副学長）

続いてJose Miguel Aguileraチリ科学技術庁長官より祝辞があり、チリと日本の科学技術協力の重要性などについて述べると共に、miniTAO望遠鏡を設置している山頂周辺を今後50年間科学的用地にすることを決定したという発表があった。

その後、林渉在チリ日本国大使、磯田文雄文部科学省研究振興局長、ならびに、Gabriel Rodriguezチリ外務省エネルギー科学技術局長より、それぞれの観点からの祝辞があり、さらにチリ共和国大統領府より、ピニエラ大統領の祝辞のメッセージが寄せられた。

レセプションパーティでは、チリ風にアレンジされた寿司が振る舞われ、普段はなかなか会う機会のない日本とチリの関係者の中で、和気あいあいとした交流が行われた。

今回の式典を通して、日本とチリにとってTAO計画は重要なプロジェクトであるとの認識のもと、口径6.5mのTAO望遠鏡の実現に向けて両国が結束を強め、今後さらに協力していくことを誓い合った。

最後は、TAO計画への期待感で出席者一同の気持ちが一つになり、盛大な拍手で式典の幕を閉じた。



miniTAO望遠鏡の紹介をする吉井センター長

画像：東京大学TAOプロジェクト提供

大学院工学系研究科・工学部  
山崎直子宇宙飛行士の「帰地球」報告会が開催される

4月5日から20日まで、スペースシャトルで宇宙に行き、宇宙ステーションにも短期滞在して帰還した本学工学系研究科修了の山崎直子宇宙飛行士の講演会（工学系研究科主催、GCOE機械システムイノベーション国際拠点後援）が7月8日（木）に安田講堂にて開催された。打ち上げや大気圏再突入時でのスペースシャトル内の様子、宇宙ステーションでの実験をはじめとする種々の作業、無重量状態での感覚、宇宙での生活の様子など、宇宙での貴重な体験がビデオと写真で紹介され、安田講堂も立ち見が出るほどの大勢の方が聞き入った。「宇宙から見た地球は想像以上に美しかった」、「地球が一つの生命体を感じられた」という感想が印象的であった。講演後の30分にわたる質疑応答では、宇宙での体験、医学・生理的な面、宇宙飛行士の意識・考え方、宇宙ステーションの先にある宇宙開発のビジョンなど多方面にわたる質問が出され大いに盛り上がった。

なお、講演会に先立って、スペースシャトルに乗せて宇宙に運ばれた工学部旗の返還式が行われたことも紹介された。宇宙が近づいた1時間であった。



北森武彦工学系研究科長へ工学部旗の返還



講演中の山崎直子宇宙飛行士



講演会の様子

イエール大学の友好の証であるともいえる。

二曲一双の屏風の表には、鎌倉時代に東大寺を再建したことで有名な重源の自筆史料をはじめ、指定文化財級に貴重な中世・近世史料が貼られている。また屏風の芯には、昭和初期に史料編纂所で作成された書類の反故が再利用されている。

厳重な梱包によって搬入された屏風は、所員たちの見守る中、徐々に姿を現し、所内の史料修理室に運び込まれた。今後、1年以上をかけて屏風に貼られた史料は慎重に研究、修理される予定である。



76年前に巣立った玄関へ、お帰りなさい！

史料編纂所  
イエール大学より、「古文書屏風」が  
76年ぶりの里帰り

7月23日（金）、アメリカ合衆国イエール大学より、同大学附属のバイネキ貴重書図書館が所蔵する「古文書貼り交ぜ屏風」が、史料修復のために史料編纂所に送られてきた。

本学はイエール大学との間で、教員・学生の交流や共同研究・シンポジウムの実施などに関する国際交流協定を結んでいるが、このたびの史料修復もこの国際交流の一環として行われるものである。

実は、今回イエール大学から送られてきた「古文書貼り交ぜ屏風」は76年前に史料編纂所で作られたものである。19世紀末から20世紀前半にかけて、イエール大学には、欧米における日本史研究のさきがけとなった朝河貫一教授が在籍していた。当時の米国には日本史研究のために必要な史料が乏しかったが、これを憂慮した朝河教授の呼びかけに応じて、寄附活動を行った日本在住のイエール大学卒業生たちと、彼らからの依頼を受けて実際の史料収集にあたった東京帝国大学文学部の黒板勝美教授（元史料編纂所長）の共同事業として、この屏風は制作され、米国に贈られたのである。したがって、このたびの修復事業は、この屏風の76年ぶりの「里帰り」なのである。また、この屏風は、1世紀に及ぶ本学と



屏風の状態を検分する修復担当者たち



撮影日：2008年12月8日  
 撮影場所：安田講堂前の銀杏並木  
 写真の中の高校生たちも子供たちもいつか東大生となり、この道を歩くことになるかなあと浮かびながら作品名を付けました。

道



光と影

撮影日：2009年12月4日 撮影場所：赤門周辺  
 暖かい日差しと銀杏の枝や葉の影の風合いはとてよかったです。



撮影日：2009年5月30日 撮影場所：赤門

親と子



見つめ

撮影日：2009年5月30日 撮影場所：浜尾新像前  
 後ろは歴史人物の像なのに、その前に現代の若者のstreet dance、とっても不思議な光景でした。まるで大先輩が時を越えて、後世の後輩たちを見つめている感じで、すばらしいコラボでした。



雪だるまのゴールキーパー before



雪だるまのゴールキーパー after

2010年2月1日の夕方から雪が降り始め、2日朝御殿下を通った時、積雪でグラウンドは白くなっていました。が、昼過ぎに再びグラウンドを通った時、なんと雪が解けて、雪だるまのゴールキーパーが現れました！思わず「なにこれ！」と笑ってしまいました。

(大学院薬学系研究科 生体分析化学教室 張ジュンウェイさん)



### リスク論と歴史

岡本拓司

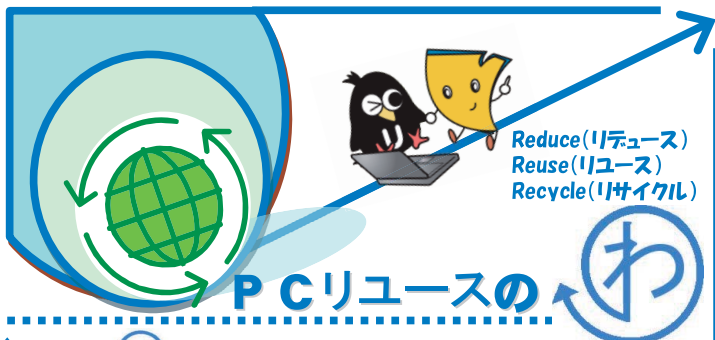
総合文化研究科 准教授  
教養学部附属教養教育高度化機構  
科学技術インタープリター養成部門

科学技術と社会の接点に関わる重要な問題の一つにリスクがある。通常、科学技術関連の話題が大きな関心と呼ぶことはあまりないが、生命や健康、財産に被害が及ぶ災厄が迫ると、人々はこれに立ち向かうための科学技術に注目する。新型インフルエンザでも首都直下地震でもそうであり、いわゆる文明社会において、これらの問題に、たとえば信心で対処しようとする人々はほぼ皆無であろう。リスクへの対応に関して最も信頼される知識や手段であることを手掛かりに、科学技術の特質を論ずることも可能である。反面、科学技術が新たな災厄を生むことや、既存の災厄を甚大化することもよく指摘される。リスクへの対処は、簡単にいえば、守るべき価値を有するなものかを害しうる存在について、発生確率や及ぼす害の大きさを、個別の要素の分析や過去の事例の統計などによって算出し、現在講じる手段で被害を最小限に食い止めるというのが一般的であろう。過去に被害を受けたのであれば、被害自体は悲しむべきことではあるが、同じ間違いを繰り返さないよう、その経験を貴重な財産として活用した対処がとられるべきである。

ところが、過去に目を向けると、上の議論を疑わせるような事例にぶつかることがある。第二次大戦中、国体護持という目標のために多くの人が亡くなったが、戦争が終わると国体の価値は消え去った。負けてはならぬと多くの人が戦場に駆り立てられたが、いざ負けてみると、やってきたのは平和であり民主主義であり男女平等であった。負けてみて悪いことは特になく、起こったのはむしろ良いことのみであった。第二次大戦の7、80年前には、尊王攘夷の声に突き動かされて起こった明治維新の後、実際には日本は開国し、攘夷は貫徹できなかったという出来事があった。西洋列強の侵略を防ぐために明治維新は起こされたはずであったが、維新後、人々は伝統的な服装や習慣を西洋式にあらため、法制も教育も西洋化した。

社会が大きな変化に晒されると、守るべき価値にも変化が生ずる。これは日本に限った現象ではない。昨日まで使っていた教科書に墨を塗るような経験は、二つの世界大戦で敗れたドイツも、社会主義国家の成立と崩壊をみた東欧諸国も、共有している。一貫した価値を守るといってすませられるのは、建国以来、たとえば戦敗によって価値体系が大きく変動するといった経験をせずに済んだ国であろうが、そういう例外的な国では、他の国々が学ぶところがあまりない、特異なリスク意識が成立しているのではないかと。他分野同様、リスク論においてもアメリカの研究に学ぶところは大きい、その成果に舌を巻きつつも、いつも一点臍に落ちない部分が残る思いがするのは、やはり自分も日本の歴史をなにほどかは背負っているためであろうかと考えることがときどきある。

★科学技術インタープリター養成プログラム  
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>



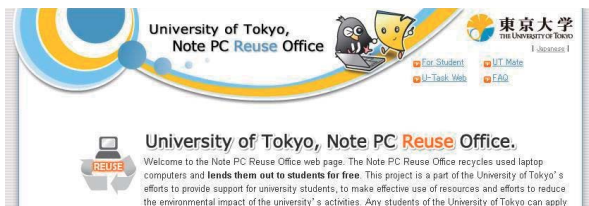
## PCリユースのわ

### 第10回 留学生さんいらっしゃい!

ノートPCリユースオフィスでは留学生の方でも気兼ねなく利用できるよう、可能な限りの英語対応も行っていきます。おかげさまで(?)前回行われた第3回目のリユースPC使用申請では、留学生の方々からの申請が第2回目より約4倍増となり、現在リユースPCを貸与している学生の約3割近くが留学生の方となりました。そこで今回はノートPCリユースオフィスでの英語対応の取り組みについてご紹介します。

オフィスでは英語版ウェブサイトを作成しており、その掲載文はオフィスのスタッフ一同で地道に英訳したものです。直訳では文が長くなりすぎてしまったり、意外にも「前期課程学生」や「本部棟」など身近な言葉の英訳が難しかったりと、四苦八苦しながらなんとか形にはしましたが、出来あがってからも「ちゃんと正しく伝わっているだろうか?」という不安がありました。そんな中、留学生の方と直接やりとりをするうちに、私たちスタッフにとっても英語が外国語であるのと同様に、留学生の方にとっても実は英語が母国語では無いという事が分かりました。それが不思議な連帯感となり、お互いに気をつけて聞こう、よく理解しよう、という気持ちにつながったように感じます。リユースPCの引き渡時は、指差し・ジェスチャーを交えて注意事項を説明し、質問にもなんとか答えた後、最後にリユースPCを手渡します。その時にっこり笑って「アリガトウゴザイマス!」と言われ、留学生にも同じように支援出来た事を実感し、あきらめずにやって良かったな、と嬉しい気持ちになるのです。

引き渡した後もオフィスのサポートは続きます。リユースPC返却時にまたにっこり笑顔が見られるよう、引き続き英語対応にも積極的に取り組みたいと思います。(高)



英語版ウェブサイトも稼働中

#### ☆7月各部局ご提供PC☆

新領域創成科学研究科	1台	文学部	1台
生産技術研究所	3台	農学部	1台
医科学研究所	1台	数理科学研究科	11台

以上18台のノートPCは4回目の募集時に利用させていただきます。どうもありがとうございました。引き続きよろしく願いたします。

- 問い合わせ先: ノートPCリユースオフィス (本部資産管理部資産課内)  
E-mail: [pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp)  
URL: <http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/>  
内線: 22135 (担当 小川・高橋・戸田)
- ノートPC回収先: 美津野商事株式会社システム事業部  
E-mail: [reuse@mizuno.net](mailto:reuse@mizuno.net) (担当 川崎・石井)  
電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180



# ケータイからみた東大 ～帰ってきた東大ナビ通信！～No. 2

## アメリカ大学事情 (2) ～バークレー校での研究について

大学総合教育研究センターで助教をしております、重田勝介と申します。携帯電話を使った教育情報サービス「東大ナビ」を運営しております。今回は引き続き「アメリカ大学事情」ということで、私がカリフォルニア大学バークレー校で行っていた研究についてご紹介いたします。

ここ数週間、暑い日々が続きますね。カリフォルニアも夏は暑いですが、カラッとしていて日陰に入ると涼しく、夜は気温も下がります。日本から、あの素晴らしい気候を懐かしく思い出しています…

私はフルブライト奨学生（研究員プログラム）として、「オープンな教育資源の再利用」をテーマに、バークレー校にて客員研究員をしております。ここ10年来、国内外の高等教育機関において、講義の資料やビデオなどをインターネットを通じ、「オープンな教育資源(Open Educational Resources: OER)」として公開する動きが進んでいます。MIT (マサチューセッツ工科大学) から広まったオープンコースウェア(OCW)、近年ではApple社が展開するiTunes Uもその一例です。実は本学もこのような動きに参加しており、東大オープンコースウェア(UT OCW)や東大TV、東大ポッドキャストなどのウェブページが開設されています。本学ホームページからリンクされていますので、ぜひ一度覗いてみてください。

私は本学で、これらのサイトで公開される講義ビデオを制作する「コンテンツ開発室」を運営しており、私自身も教育にテクノロジーを活用する「教育工学」という分野で研究をしています。その両方に役立てたいという考えから、大学発の教育リソースが米国でどのように作られ、再利用されているのかについて、バークレー校や全米の大学、学会を回りながら調査をしていました。

また私はバークレー校で「Educational Technology Services (ETS)」という組織に所属していました。ここは研究組織というよりは、キャンパスにおける「教育へのテクノロジー利用」を包括的に支援する事務組織です。私はOERの研究に加え、バークレー校でこのような支援が、どのように組織立てて行われているのか、その現状と歴史を調査しました。

私は滞在中、幸か不幸か、客員研究員専用の区切られた場所ではなく、職場の真ん中に席が与えられ、オフィスの職員に囲まれながら日々を過ごすことになりました。そのため仕事の様子を逐て観察でき、事あるごとに議論もできて大変有意義だったのですが、反面、不意に雑談に「巻き込まれ」たり、質問攻めにあうことも多く、英語が鍛えられた（効果はともかく…）のはこの環境のおかげだったと、今になって思います。



写真1: ETSの職員たちとの一枚

次号では、私の滞在中に起こった学生による学費値上げに反対する抗議活動など、大学の財政事情を巡る動向をご紹介します。

### 【参考URL】

UT OCW : <http://ocw.u-tokyo.ac.jp/>  
東大TV : <http://today.tv/>  
Educational Technology Services, UC Berkeley : <http://ets.berkeley.edu/>

### 【前回記事の訂正】

前回の記事におきまして、カリフォルニア大学バークレー校のことを、「カリフォルニア州立大学バークレー校」と誤って表記しておりました。カリフォルニア州には、「カリフォルニア大学(University of California)」と「カリフォルニア州立大学(The California State University)」の2種類の大学システムがあります。前号記事へのご指摘に感謝し、ここにお詫びと共に訂正させていただきます。

## 東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メルマガで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用頂けます。是非、東大ナビをご活用ください！



## イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに  
空メール送信！

- この記事のQRコードから
- mail@utnav.jp宛てにメール送信
- 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PC  
どちらからも登録可能

返信メール  
から  
登録画面  
へ入力！

- ご所属
- 性別・年齢など

登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET！

## イベントを宣伝したい方

- 携帯・PCサイトで申し込みます
- http://utnav.jpにアクセス
- イベント掲載フォームから送信！
- 追ってスタッフよりご連絡致します

教育企画室TREEオフィスまで！

- 内線：27823 (重田)
- メール：info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp
- オフィス：本郷キャンパス  
第二本部棟403号室

## 知的財産権に関する基礎知識を身につけよう！



講義を熱心に聴く参加者

7月13日（火）9時半から17時まで産学連携プラザ2階大会議室にて、教職員を対象とした「平成22年度知的財産研修」を本部産学連携課企画チームと知的財産部との共催で開催しました。本研修は、知的財産権に関する基礎知識を身につけることによって、大学の研究および研究契約締結の円滑化を図り、本学の教育・研究の推進につなげることを目的としています。

講義は昨年同様、産業財産権四法（特許法・実用新案法・意匠法・商標法）の概要とライセンスおよび著作権法の概要について行いましたが、今年度は新たに「知的財産権はじめの一步」と題した初心者向けの講義と知的財産部を窓口とした個別相談会も実施しました。また、各講義についても、即席演習器具を用いた発明に関する説明、特許法の規定や権利侵害についてクイズ形式を取り入れた説明、東京大学の商標を例に挙げた説明、『ロミオとジュリエット』を例にした著作権法の説明など、身近なものを題材に趣向を凝らした内容としました。

約40名の参加者のアンケートからは、「初心者にもわかりやすかった」「東京大学が知財をどう扱っているか詳しい解説があり、とても勉強になった」という声があった反面、「用語集などがあるとわかりやすい」「初心者向けの講義はもう少し時間をとってくれるとよかった」という改善を求める声もありました。

参加者のみなさんの声を今後の研修に活かしていきたいと考えています。



知的財産部による個別相談会の様子

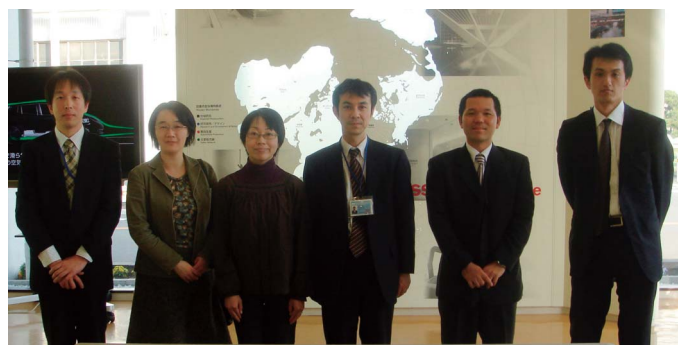
産学連携研究  
推進部(後編)

## TLF (テクノロジー・リエゾン・フェロー) のみなさん

産学連携本部には、自治体職員等を対象とした、産学官連携により地域の活性化を推進する専門教育育成制度、『テクノロジー・リエゾン・フェロー(TLF)研修制度』があります。前編に続き、今年度研修に来ている第11期TLFの6名のみなさんをご紹介します。

各自治体より1年間、産学連携研究推進部に派遣されている第11期テクノロジー・リエゾン・フェロー（以下TLF）のみなさんのスケジュールは多忙を極めます。ある1週間を例にとると、月曜日は午前と午後2時間ずつ産学連携に関する講義を受講。火曜日～木曜日は教員インタビューほか、企業・大学間の共同研究立案への参加に加え、自分たちが設定した課題を進める「個別課題活動」を行います。金曜日は企業の研究所を訪問し、知識や見聞を深めます。

TLFのみなさんに東京大学に期待することをうかがったところ「日本や世界をリードする大学であり、社会に開かれた大学であってほしい」「国のシンクタンクのような役割をしていると思うので、それを維持しつつ地域とも連携をとってほしい」「世界を向いている研究者は多いと思うが、地域貢献、社会貢献も大学の役割であることを忘れないでほしい」という意見がありました。また「東京大学の研究者は敷居が高いと思っていたが、インタビューなどでお話させていただき、そうではないと感じた。東京大学の研究者は地方の企業や地元の大学と連携して、地方を活性化の手助けをしてほしい。そのときに私たち自治体が橋渡しをすることができればいいと思っている」と抱負を話していただきました。



写真左より、太田 悟さん(福島県)、中村素美さん(千葉県柏市)、相田亮子さん(東京都文京区)、佐々木 揚さん(秋田県)、山内章広さん(沖縄県)、上野 剛さん(大分県)

連絡先：産学連携本部（本部産学連携課）  
電話：内線22857（外線03-5841-2857）  
WEBサイト：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索





## ワタシのオシゴト / 第54回

Rings around the UT

本部契約課集中調達チーム

石塚 泰史さん

## コミュニケーションセンターだより No.68

## ■緑地植物実験地「観蓮会」にて出店致しました！！

毎日暑いですね！皆様はいかがお過ごしでしょうか。

先月、検見川の緑地植物実験地(大学院農学生命科学研究科)にて行われる「観蓮会」にてテント出店して参りました。この会は毎年早朝から様々な蓮の開花を楽しもうと多くのお客様で賑わいます。UTCCが出店を行うのはこれで4回目なのですが、いつも時期がずれ咲いていなかった「大賀蓮」が咲いてるところを初めて見る事ができ、大変嬉しく、よい思い出になりました。

そして1番人気のあった商品は、やはり大賀蓮の香りの香水「蓮香オードパルファム」です。皆様実際の大賀蓮と香りを比べられ、普段店頭では味わえない楽しみ方をして頂きました。



蓮香オードパルファム:2,100円 蓮香あぶらとりがみ:420円

## ■スタッフオススメ商品紹介☆



大学院情報学環・学際情報学府  
学際情報学専攻 修士課程2年  
大津奈都子

こんにちは！UTCCスタッフの大津です。私の一押し商品は「大木扇」(3種)です。東洋文化研究所の大木康先生の訳による、中国明代の通俗歌謡が書かれた扇子です。表に原文、裏に日本語訳が記されています。暑い日の涼として、またお部屋のインテリアとしてもお使い頂けます。また、恋人同士の逢瀬を謡った「月上」は恋人への贈り物に、扇に歌を綴って想い人に愛を語った古の風流人を気取ってみるのも一興です。

担当：UTCC吉岡



東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

The University of Tokyo

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00

電話：03-5841-1039

http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

## オシゴト、山歩き&amp;ジャズ、サッカー

平成21年7月に現在の本部契約課に勤務となりました。主な業務は、特定調達契約(政府調達)の入札までの手続き全般、学内共通単価契約(コピー用紙、アルコール等)、学内共通役務契約(移転、トイレ洗浄器具「カルミック」、エレベーター保全等)を担当しています。また、調達本部の業務も担当しており現在情報システム本部の方々と複写機の次期調達の仕様書策定の検討を行っております。趣味は、嫌々始めた山歩きですがすっかり山に魅了されて、今では自ら計画を立てて



特定調達担当の集中調達チームのメンバー

箱根や秋田によく行っています。最近では妻がジャズピアノを習い始めたのをきっかけに、お気に入りのピアニストの生演奏を聴きに週末ジャズクラブへ通っています。

写真は、東京大学教職員チーム「東大ダックス」に参加していた20年前、御殿下グラウンドで撮影したもので、当日東京都社会人リーグで全勝優勝を決めた日の試合後の写真です。素晴らしいチームメイトに囲まれて、サッカーを楽しんでいた時代です。



また一緒にボールを蹴りたいです。後列右から5番目が私

得意ワザ：ラーメン、箱根はガイドブック並みに詳しい。

自分の性格：マイペース

次回執筆者のご指名：小川原茂樹さん

次回執筆者との関係：JAXA(宇宙研)での上司。

次回執筆者の紹介：仕事以外(?)の話は最高です。

# FOREST NOW

行動シナリオの  
「今」をレポート

東大生、社会に触れる  
～アントレプレナー道場～



今回は重点テーマ別行動シナリオ「3. 社会連携の展開と挑戦—『知の還元』から『知の共創』へ—」で取り上げられている「東京大学アントレプレナー道場」取材しました。

まずは道場の紹介から。アントレプレナー道場は、社会連携や学生育成を行うための、産学連携本部の取組の1つで、今年で6年目になります。道場に「入門」するのは本学の学生やポスドクです。初級、中級、上級コースの3段階から成る、約6ヶ月間のプログラムを通して、彼らの中に起業家精神を養成します。今回取材をさせていただいたのは中級コース「ビジネスプラン検討会2」。学生たちが自分たちのビジネスプランを外部の専門家(ベンチャーのプロ)に直接批評してもらい、アドバイスを受ける会です。

道場で最初に感じたのは、学生のアイデアの幅広さやプレゼンの上手さです。ファッション、インターネット、食、医療、不動産などなど、身近な課題や自分の研究テーマから実に様々なビジネスチャンスを見つけて表現するものだと感心しました。さらに、プレゼンの後の専門家との質疑応答が印象的でした。「あなたの商品の『売り』を一言で言うとは何?」「類似した商品に勝ち抜く方法は?」。プロの視点から学生に投げかける厳しくするどい質問や指摘。それに四苦八苦しなながら答えをひねり出す学生たち。そこはまさに学生が鍛えられている現場でした。

「大学という閉じた世界から踏み出して学生が企業と関わることはとても大事なこと」。道場の企画・進行を担う産学連携本部の菅原岳人助教はおっしゃいます。「大学の知は社会でどのような需要があるのか。どうすれば大学の知を社会で活用できるのか」。実社会と触れて考え、鍛えられた経験は、学生たちにとって大きな力になります。道場卒業後、社会人経験などを経て実際に起業する学生も出始めており、道場の卒業生の中に「知の共創」の種が着々と植えられているのです。

最後に、菅原助教にこれからの抱負を伺いました。「行動シナリオのお墨付きをいただいたので、今後はもっと多くの学生に道場を経験してもらいたいです。社会との連携を通じたタフな東大生の育成に意気込む菅原助教、取材へのご協力ありがとうございました。

**行動シナリオを読もう!**

<http://www.u-tokyo.ac.jp/scenario/>

【お問い合わせ先】本部企画課(内線22393)

## 平成22年度 学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日 (校了)	配布
1403	8月30日(月)	9月24日(金)	9月30日(木)
1404	9月30日(木)	10月25日(月)	10月29日(金)
1405	10月29日(金)	11月24日(水)	11月30日(火)
1406	学生生活実態調査号		
1407	11月26日(金)	12月17日(金)	12月24日(金)
1408	1月 6日(木)	1月25日(火)	1月31日(月)
1409	1月31日(月)	2月22日(火)	2月28日(月)
1410	2月28日(月)	3月24日(木)	3月30日(水)

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
 【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】



問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム  
 内線22031  
 E-mail: [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

# INFORMATION

## 募集

### 募集

大学院人文社会系研究科・文学部

平成 23 (2011) 年度 大学院人文社会系研究科入学試験日程を発表

7月24日(土)から「平成23(2011)年度大学院人文社会系研究科修士課程及び博士課程学生募集要項」の配付を開始しました。日程は以下のとおりです。

#### 【修士課程】

第一次試験(筆記試験) 平成23年1月22日(土)  
第二次試験(口述試験等) 平成23年2月8日(火)  
※ 現代文芸論専門分野、文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻の第二次試験は、2月7日(月)に行います。  
※ 文化資源学研究専攻については、社会人特別選抜での受入れ(日本人及び日本国の永住許可を得ている者に限る)も行っています。

#### 【博士課程】

第一次選考 論文審査等  
(専門分野によっては、平成23年1月22日(土)に学力試験を実施)  
第二次選考 口述試験等 平成23年2月10日(木)  
※ 現代文芸論専門分野、文化資源学研究専攻及び韓国朝鮮文化研究専攻の第二次選考は、2月9日(水)に行います。  
※ 文化資源学研究専攻については、社会人特別選抜での受入れ(日本人及び日本国の永住許可を得ている者に限る)も行っています。

また、出願期間は以下のとおりです。

#### 【修士課程】

平成22年10月18日(月)～10月25日(月)  
(郵送のみ受付。25日(月)必着)

#### 【博士課程】

平成22年12月2日(木)～12月8日(水)  
(直接持参又は郵送。8日(水)15:00必着)

募集要項の郵送を希望する場合は、封筒の表に「○○課程学生募集要項請求」と朱書きし、郵便番号・住所・氏名を明記して、200円分(修・博等2部必要な場合は240円分)の切手を貼付した返信用封筒(角型2号)を同封し、以下へ送付してください。

〒113-0033  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学大学院人文社会系研究科 事務部  
電話 03-5841-3710,3712 (大学院係)

## お知らせ

### お知らせ

#### 情報基盤センター

9月限定「国内の法令・判例を検索するには？」ほか  
“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ

レポート・論文・ゼミ発表で、文献探しや文献整理に困っていませんか？

情報基盤センター図書館電子化部門では、“情報探索ガイダンス”各種コースを実施しています。

実際にパソコンを操作しながら実習するので、わかりやすいと大変好評です。

9月は、新規のコース、今回限定のコースもあります。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

#### ■ 9/14 (火) 13:30～14:30

電子ジャーナルで論文入手& RefWorksですっきり整理  
【新コース】

これを知っていれば論文の収集・整理が効率アップ！  
電子ジャーナルで論文を入手する方法と、著者名やタイトルなどの論文情報を各種の電子ジャーナルから文献管理ツール「RefWorks」に取り込み、論文リストを作成する方法を実習します。

#### ■ 9/15 (水) 15:00～16:00

国内の法令・判例を検索するには？

D1-Law.com 講習会 【9月限定コース】

日本の法令・判例を検索できる法情報総合データベース

ス「D1-Law.com」の講習会です。「D1-Law.com」は、判例をピンポイントに拾い出すための検索機能を搭載。リーガル・リサーチにぜひご活用ください。

提供元から講師をお招きします。この機会をお見逃し無く！

■ 9/17 (金) 15:00 ~ 16:00

文献検索早わかり

図書、電子ジャーナル、日本語論文 (CiNii)、英語論文 (Web of Science)、新聞記事など、各種文献の探し方を、まとめてコンパクトに解説します。

■ 9/22 (水) 16:00 ~ 17:00

文献リストをサクッと作成 ~ RefWorks を使うには～

Web 版の文献管理ツール「RefWorks」の基本的な使い方を説明します。データベースからのデータの取り込み方、参考文献リストの自動作成方法などを実習します。

■ 9/28 (火) 15:00 ~ 16:00

Web of Science 応用編

& インパクトファクターミニ講座 【新コース】

全分野の主要学術雑誌に掲載された論文のデータベース「Web of Science」の検索テクニックや引用分析など便利な機能をコンパクトに解説、学術雑誌のインパクトファクターの調べ方も実習します。初めての方も歓迎！

- 会場：本郷キャンパス総合図書館 1階講習会コーナー
- 参加費：無料
- 予約不要 各回先着 12 名。直接ご来場ください。

月	火	水	木	金
9/13	9/14 13:30-14:30 電子 ジャー ナル & RefWorks	9/15 15:00-16:00 法令・判例 D1-Law. com	9/16	9/17 15:00-16:00 文献検索 早わかり
9/20	9/21 秘書さん向 けガイダン ス(※)	9/22 16:00-17:00 RefWorks	9/23	9/24
9/27	9/28 15:00-16:00 Web of Science	9/29	9/30	

(※) 別記事 P29「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイダンス in 柏キャンパス」参照

- ご希望の日時・内容でオーダーメイド講習！  
オーダーメイドの講習会を、随時承っています。(無料)  
詳細は下記サイトをご参照ください。  
(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

● Litetopi メールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)

●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)

literacy \* lib.u-tokyo.ac.jp

(\*は@に置き換えて送信してください。)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>



お知らせ

情報基盤センター

次期教育用計算機システムに関する公聴会のお知らせ

情報基盤センター情報メディア教育部門では、2012年3月に導入が予定されている次期システムの計画立案の前に、実際に当センターのシステムを利用している先生方や、授業などを企画される方を対象に、次期教育用計算機システムに関する要望などについてご意見を伺うための機会として、上記公聴会を開催することにいたしました。本郷・駒場の両会場で同じ内容のものを行います。

参加ご希望の方は、資料準備等の都合がありますので必ず事前にお申し込み願います。

1. 会場

本郷：9月16日(木) 15:00～16:00

情報基盤センター大演習室2 (1階)

駒場：9月17日(金) 15:00～16:00

情報教育棟大演習室2 (3階)

2. 申込先

E-mail：ecc-support \* ecc.u-tokyo.ac.jp

(\*は@に置き変えて入力してください。)

3. 申込時の記載事項

件名：公聴会参加申込

本文：参加会場、所属、身分、氏名、連絡先 (E-mail アドレス、電話番号)

授業担当または分散端末管理・担当責任者の別特に聞きたい点 (ある場合のみ)

## お知らせ

### 情報基盤センター

#### 「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイダンス」 in 柏キャンパス

先生に頼まれた論文の検索で困っていませんか？この機会に、論文の探し方の基本をマスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイダンス」を開催します。本郷キャンパスで8月に実施したところ、「ぜひ柏でも」とのご要望をいただき、柏キャンパスでも開催することになりました。ぜひご参加ください。

「文献検索は初めて」という初心者の方に向けて、文献リストの読み取り方から、電子ジャーナルで論文を入手する方法、論文の被引用件数の調べ方などを、実際にパソコンを操作しながら実習します。

インターネット初心者の方も歓迎です。

予約優先です。席に余裕があれば当日参加もOKです。

#### ●対象：

本学にご所属の、研究補助を担当されている教職員(短時間勤務有期雇用職員含む)が主な対象です。

#### ●日程：

- ・第1回： 9月21日(火) 13:00～14:00
  - ・第2回： 9月21日(火) 14:30～15:30
- 同じ内容で2回開催します。

#### ●会場：

柏キャンパス 柏図書館1階  
ラーニングサポートサービス  
(先着24名 事前予約の方優先)  
※希望者先着12名まで備付PC利用可  
※持込PC利用可(無線LAN利用可能なもの)

#### ●内容：

- ・参考文献リストの読み取り方
  - ・図書を探す(図書館での所蔵の有無を調べる)
  - ・雑誌を探す(電子ジャーナルで論文を入手)
  - ・ある著者の論文を探す(日本語論文・英語論文)
  - ・論文の被引用回数の調べ方
- その他、リクエストに応じて説明します。

#### ●参加費： 無料

#### ●申込み方法：

学術情報リテラシー係宛てに、以下のメールをお送りください。(アドレスは下記参照)

Subject(件名)： 柏秘書向けガイダンス参加希望  
本文：(1)参加希望時間(2)氏名(3)身分(4)

所属(5)講師への質問(6)PC持込みする/しない

#### ●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)  
literacy \* lib.u-tokyo.ac.jp  
(\*は@に置き換えて送信してください。)  
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

## お知らせ

### 大学院工学系研究科・工学部

#### 「第25回東京大学工学部・工学系研究科技術発表会」開催のお知らせ

工学部・工学系研究科では、本年度も「技術発表会」を下記のとおり開催いたします。この発表会は技術系職員が職務上で得た技術的知見を発表し討論を行うことによって、相互技術交流を活性化させることを目的としております。是非ご参加ください。

日時：9月30日(木) 10:00～17:30

会場：工学部2号館 213号講義室

参加費：無料

問合せ先：技術発表会事務局

E-mail：2010tse@tse.t.u-tokyo.ac.jp

<http://www.ttc.t.u-tokyo.ac.jp/>

プログラム

【開会の挨拶】 10:00～10:20

【セッション-1】 10:20～11:05

「MALT PIXE Systemにおけるレーザーを用いたビーム照射位置モニターシステムの開発」

原子力国際専攻 中野忠一郎

「加速器を用いた東京大学周辺(池底質、大気粉塵)の

環境分析－PIXE分析法による学生実習と技術職員の取  
り組み－」 原子力国際専攻 伊藤誠二  
「大気圧PIXE用電荷増幅器の開発」  
システム創成学専攻 細野米市

【セクション－2】 11:15～11:45  
「平成21年度工学系研究科技術部工作技術講習企画委員  
会報告」 マテリアル工学専攻 杉田洋一  
「X線装置からの漏洩X線の測定」  
安全管理室 大久保徹

休憩（昼食）

【特別講演】 13:00～14:00  
「工学分野における教育システムと国際化について」  
電気系工学専攻 保立和夫教授  
（前大学院工学系研究科長・工学部長）

【セクション－3】 14:10～14:55  
「低電圧作動が可能な避雷器の開発」  
原子力国際専攻 安本勝  
「予冷ターボジェットエンジンのアフターバーナ模型内  
の燃焼における冷却技術と可視化技術について」  
航空宇宙工学専攻 奥抜竹雄  
「Ta,Ni及びNb金属微粒子の凝集状態について」  
マテリアル工学専攻 中村光弘

【セクション－4】 15:05～15:50  
「核種データベース検索プログラムソフトの開発」  
原子力専攻 石本光憲  
「GPGPUを用いたPCの演算高速処理について」  
システム創成学専攻 榎本昌一  
「PCの構成～デスクトップPCの組立から廃棄まで～」  
建築学専攻 田村政道

【ポスターセッション】 16:00～17:00  
【表彰式・閉会挨拶】 17:15～17:30  
【懇親会】 18:00～20:00（参加費2,000円）

## お知らせ

本部入試課

各種選抜要項・募集要項等の配布のお知らせ

## 「大学案内2011」及び「平成23年度入学者選抜要項」の配付始まる

「大学案内2011」・「平成23年度東京大学入学者選抜要項」が決定した。各都道府県教育委員会等に通知するとともに「大学案内2011」は7月10日（土）から、「平成23年度東京大学入学者選抜要項」は7月24日（土）

から、本郷キャンパス（正門、赤門、広報センター（龍岡門）、コミュニケーションセンター（赤門脇）、東大生協（安田講堂売店、書籍部）、農学部正門）、駒場Iキャンパス（正門、コミュニケーションプラザ北館1階生協購買部）で配付を開始した。

なお、東京大学ホームページ、テレメールからも請求することができる。

平成23年度入学者選抜の実施教科・科目等は表1・2・3のとおりである。

## 「平成23年度外国学校卒業学生募集要項」の配付始まる

「平成23年度東京大学外国学校卒業学生募集要項」が決定し、7月1日（木）から入学志願者に対し、本郷キャンパス（正門、赤門、広報センター（龍岡門））、駒場Iキャンパス（正門）で配付を開始した。

また、東京大学ホームページ、テレメールからも請求することができる。

なお、平成23年度の募集人員、出願資格、出願期間、出願手続、選抜方法など、特別選考の概要は表4のとおりである。

表 1

平成 23 年度 東京大学入学者選抜（一般入試）前期日程試験の実施教科・科目等について〔文科各類〕

学部・学科等名 及び募集人員等 （平成 22 年度 志願倍率）	学力検 査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名 注 1			個別学力検査等（第 2 次学力試験）			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等					注 3 配 点 計	特別の選 抜方法等	その他
		教科 等	科 目 名 等	科 目 名 等	教科 等	科 目 名 等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科			
文科一類 3.2 401 人 前期 その他 若干	2月25・ 26日	国語 現代文・倫理・政経から1 教I・教A 教II・教B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6 教科 7 科目]	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1 現社, 倫, 政経から1 教I・教A 教II・教B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6 教科 7 科目]	国語総合・国語表現I・現代文・古典 教I・教II・教A・教B 日B, 世B, 地理Bから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	センター試験	(200)	(100)	(100)	(200)	(100)	(200)	(200)	110 (900)	帰国子女 外国人 追加合格	
文科二類 3.2 353 人 前期 その他 若干	2月25・ 26日	国語 現代文・倫理・政経から1 教I・教A 教II・教B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6 教科 7 科目]	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1 現社, 倫, 政経から1 教I・教A 教II・教B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6 教科 7 科目]	国語総合・国語表現I・現代文・古典 教I・教II・教A・教B 日B, 世B, 地理Bから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	センター試験	(200)	(100)	(100)	(200)	(100)	(200)	(200)	110 (900)	帰国子女 外国人 追加合格	
文科三類 3.3 469 人 前期 その他 若干	2月25・ 26日	国語 現代文・倫理・政経から1 教I・教A 教II・教B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6 教科 7 科目]	国語 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理Bから1 現社, 倫, 政経から1 教I・教A 教II・教B, 工, 簿・会, 情報から1 物I, 化I, 生I, 地学Iから1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6 教科 7 科目]	国語総合・国語表現I・現代文・古典 教I・教II・教A・教B 日B, 世B, 地理Bから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	センター試験	(200)	(100)	(100)	(200)	(100)	(200)	(200)	110 (900)	帰国子女 外国人 追加合格	

注 1 【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- (1) 数学において、『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者だけである。
- (2) 理科において、複数の科目を受験した場合は、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。
- (3) 外国語において、『英語』のリスニングテストの成績は、利用しない。

注 2 【個別学力検査等】欄

- (1) 数学 B の出題範囲は次のとおりである。  
数学 B (「数列」, 「ベクトル」)
- (2) 英語試験の一部に聞き取り試験を行う。(30分程度)

注 3 【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

第 1 段階選抜を行う場合は、表中に掲げる大学入試センター試験の各教科・科目の合計得点 (900 点満点/各教科の配点は ( ) 内のとおり。) により行う。

学力試験の成績は、大学入試センター試験の成績 (配点 110 点; 上記の合計得点 (900 点満点) に 900 分の 110 を掛けた値をもってこの成績とする。) と個別学力検査 (第 2 次学力試験) の成績 (配点 440 点) とを総合 (650 点満点) して算出する。

平成23年度 東京大学入学者選抜（一般入試）前期日程試験の実施教科・科目等について〔理科各類〕

学部・学科等名 及び募集人員等 (平成22年度 志願倍率)	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等(第2次学力試験)			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等			注3 特別の選 抜方法等 その他					
		教科	科目名	等	教科等	科目名	等	試験の区分	国語	地歴		公民	数学	理科	外国語	配 点 計
理科一類 1,108人 前期 若干 その他	2月25・ 26日	国語	世B, 日A, 日B, 地理A,	から1	国語総合・国語表現I 数I・数II・数III・数A・数B・数C 物理I・物II・化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	センター試験	(200)	(*)100	(*)100	(200)	(200)	(200)	(200)	(200)	110 (900)	帰国子女 外国人 追加合格
		地理	倫, 政経				簿・会, 情報から1	数I・数II, 生I, 地学Iから2	英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	80	120	120	120	120	120	
理科二類 3.7 532人 前期 若干 その他	2月25・ 26日	国語	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A,	から1	国語総合・国語表現I 数I・数II・数III・数A・数B・数C 物理I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	センター試験	(200)	(*)100	(*)100	(200)	(200)	(200)	(200)	(200)	110 (900)	帰国子女 外国人 追加合格
		地理	倫, 政経				簿・会, 情報から1	数I・数II, 生I, 地学Iから2	英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	80	120	120	120	120	120	
理科三類 5.0 100人 前期 若干 その他	2月25・ 26日	国語	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A,	から1	国語総合・国語表現I 数I・数II・数III・数A・数B・数C 物理I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2 英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	センター試験	(200)	(*)100	(*)100	(200)	(200)	(200)	(200)	(200)	110 (900)	帰国子女 外国人 追加合格
		地理	倫, 政経				簿・会, 情報から1	数I・数II, 生I, 地学Iから2	英(英I・英II・リーディング), 独, 仏, 中から1	80	120	120	120	120	120	

注1【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- (1) 地理歴史及び公民において、複数の科目を受験した場合は、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。
- (2) 数学において、『工業数理基礎』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者だけである。
- (3) 理科において、3科目を受験した場合は、高得点の2科目の成績を合否判定に利用する。
- (4) 外国語において、『英語』のリスニングテストの成績は、利用しない。

注2【個別学力検査等】欄

- (1) 英語試験の一部に聞き取り試験を行う。(30分程度)
- (2) 数学B, 数学Cの出題範囲は次のとおりである。  
数学B(「数列」, 「ベクトル」), 数学C(「行列とその応用」, 「式と曲線」)
- (3) 理科の出題範囲は次のとおりである。  
「物理I・物理II」 物理I(「力と運動」, 「電気と磁気」, 選択範囲からは「物質と原子」のうち、原子・分子の運動(熱力学を含む)を指定)  
「化学I・化学II」 化学I及び化学IIの「物質の構造と化学平衡」で学ぶことを基礎とする問題を出題する。題材として、化学IIの「生活と物質」, 「生命と物質」の内容を用いることはあり得る。  
「生物I・生物II」 生物I, 生物IIから出題する。生物IIの「生物の分類と進化」, 「生物の集団」の中から出題する場合は、いずれかを履修していない生徒のいることを考慮し、背景を説明した上で総合問  
題として出題する。選択問題にする、などの配慮を行う。

注3【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- (1) 第1段階選択を行う場合は、表中に掲げる大学入試センター試験の各教科・科目の合計得点(900点満点/各教科の配点は( )内のとおり。)により行う。  
学力試験の成績は、大学入試センター試験の成績(配点110点:上記の合計得点(900点満点)に900分の110を掛けた値をもってこの成績とする。)と個別学力検査(第2次学力試験)の成績(配点440点)とを  
総合(550点満点)して算出する。
- (2) 配点に\*印を付している教科は、選択教科であることを表す。



平成 23 年度 東京大学入学者選抜（一般入試）後期日程試験の実施教科・科目等について〔全科類（理科三類を除く）〕

学部・学術等名 及び募集人員等 （平成 22 年度 志願倍率）	学力検 査等 の 区 分・ 日 程	科目 名 等	注 1	注 2	大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						注 3	特別の選 抜方法等 その他				
			科目 名 等	教科・科目等 （第 2 次学力試験）	試験の区分	国語	地 歴	公 民	数 学	理 科			外 国 語	総合科目Ⅰ	総合科目Ⅱ	総合科目Ⅲ
全科類 (理科三類を除く) 31.4 100 人	3月13日	国語	世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B, 現社, 公民, 数Ⅰ・教 A, 数Ⅱ・教 B, 工, 簿・会, 情報から 1	総合科目Ⅰ 総合科目Ⅱ 総合科目Ⅲ	センター試験	(200)	(*100)	(*100)	(200)	(100)	(200)				(800)	追加合格
		地理	世 A, 世 B, 日 A, 日 B, 地理 A, 地理 B, 現社, 公民, 数Ⅰ・教 A, 数Ⅱ・教 B, 工, 簿・会, 情報から 1													

注 1【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

- (1) 地理歴史及び公民において、複数の科目を受験した場合は、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。
- (2) 数学において、「工業数理基礎」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校の修了（見込み）者だけである。
- (3) 理科において、複数の科目を受験した場合は、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。
- (4) 外国語において、『英語』はリスニングテストの成績を含むものとし、筆記試験（200 点満点）とリスニングテスト（50 点満点）の合計得点（250 点満点）を 200 点満点に換算して利用する。

注 2【個別学力検査等】欄

- (1) 総合科目Ⅰは、英語の読解力と記述力を見る（英語読解・記述を通して、表現力、構成力などを審査する）。
- (2) 総合科目Ⅱは、事象の解析への数学の応用力を見る（自然や社会のさまざまな事象を数学的に解析することを問う。ここで用いられる数学の知識は高等学校又は中等教育学校における数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学 A・数学 B（数列、ベクトル）・数学 C（行列とその応用、式と曲線）にわたるが、この科目では数学の総合的な応用力を審査する）。
- (3) 総合科目Ⅲは、文化、社会、科学等に関する問題について論述させ、理解力・思考力・表現力・読解力を見る。

注 3【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

- (1) 第 1 段階選抜を行う場合は、表中に掲げる大学入試センター試験の各教科・科目の合計得点（800 点満点／各教科の配点は（ ）内のとおり。）により行う。  
合格者の判定は、個別学力検査（第 2 次学力試験）の成績（300 点満点）に基づいて行う。ただし、判定に必要なある場合は、大学入試センター試験の成績や調査書を考慮することがある。
- (2) 配点に\*印を付してある教科は、選択教科であることを表す。

## 平成 23(2011) 年度 外国学校卒業学生特別選考

東京大学

実施科類	文科一類, 文科二類, 文科三類 理科一類, 理科二類, 理科三類
募集人員	文科一類, 文科二類, 文科三類 理科一類, 理科二類, 理科三類 } 第1種, 第2種 各若干名
出願資格	<p><b>[第1種] (外国人であって日本国の永住許可を得ていない者)</b> 平成18(2006)年4月1日から平成23(2011)年3月31日までの間に, 次の基礎資格を取得し, かつ, 要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア, イいずれかに該当すること。 ア 外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者及び修了見込みの者, 又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの 「外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校」とは, 地理的, 場所的に外国で, 原則として, その国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであって, 修了により大学への受験資格を得られることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については, 本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので, 早めに照会すること。 イ 下記のいずれかの資格を外国において取得し, かつ, 18歳に達したもの ○ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ○ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格 ○ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格</p> <p>(2) 要件 次に掲げるすべての要件を満たすこと。 ア 独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験(平成22(2010)年6月, 11月実施のいずれか)の所定の科目をすべて受験すること(日本語・英語いずれの出題言語でも受験可)。所定の科目とは, 文科各類を志望する者は文科系の科目である「日本語」・「総合科目」・「数学(コース1)」, 理科各類を志望する者は理科系の科目である「日本語」・「理科(物理・化学・生物から2科目選択)」・「数学(コース2)」のことである。 (注) 数学のコース選択を注意すること。コースの選択を間違えた者は, 第1次選考不合格者とするので注意すること。 イ TOEFL (Test of English as a Foreign Language) を受験すること(iBT, PBT, CBTいずれでも可)。なお, 出願期間までにOfficial Score Report又はExaminee Score Recordが提出できれば, 受験時期は問わない。 ウ 外国の学校に, 原則として, 最終学年を含め継続して1年以上在学し, その最終学校を修了すること。</p> <p><b>[第2種] (日本人及び第1種以外の外国人)</b> 平成21(2009)年4月1日から平成23(2011)年3月31日までの間に, 次の基礎資格を取得し, かつ, 要件を満たしている者とする。</p> <p>(1) 基礎資格 次のア, イいずれかに該当すること。 ア 外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校を修了した者及び修了見込みの者, 又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの 「外国において, 我が国の学校教育12年に相当する課程の最終学校」とは, 地理的, 場所的に外国で, 原則として, その国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであって, 修了により大学への受験資格を得られることを要する。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については, 本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので, 早めに照会すること。 なお, 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設出身者は出願が認められない。 イ 下記のいずれかの資格を外国において取得し, かつ, 18歳に達したもの ○ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格 ○ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格 ○ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格</p> <p>(2) 要件 次のア, イいずれかの要件を満たすこと。 ア 外国の学校に最終学年を含め継続して3年以上在学し, その最終学校を修了すること。ただし, 最終学年の休業等によって書類上の在学期間が3年未満となる場合については, 12月下旬に行う出願資格審査において, 3年以上在学した者との実質的な同等性について判断する。</p>

出願資格	イ 外国の学校に最終学年を含め最終学年からさかのぼって連続する6年間のうち通算で5年以上在学し、その最終学校を修了すること。 ただし、休業等によって書類上の在学期間が5年未満となる場合については、12月下旬に行う出願資格審査において、5年以上在学した者との実質的な同等性について判断する。
選抜方法等	<p>[第1種] (外国人であって日本国の永住許可を得ていない者)</p> <p>(1) 第1次選考 書類選考, 日本留学試験及びTOEFL (Test of English as a Foreign Language) の成績</p> <p>(2) 第2次選考 小論文, 面接 なお、小論文については次のとおりである。</p> <p>[小論文] 2問を課す。 2問とも日本語で解答すること。</p> <p>[第2種] (日本人及び第1種以外の外国人)</p> <p>(1) 第1次選考 書類選考</p> <p>(2) 第2次選考 小論文, 学力試験, 面接 なお、小論文及び学力試験の出題教科・科目については次のとおりである。</p> <p>[小論文] 2問を課す。 第1問は日本語で解答し、第2問は次の言語のうちからあらかじめ出願の際に届け出たもので解答すること。英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、韓国朝鮮語、アラビア語</p> <p>[学力試験]</p> <p>(文科各類)</p> <p>外国語 英語 (英I, 英II, リーディング), ドイツ語, フランス語, 中国語から1外国語 ただし、問題の一部分は、届け出た外国語に代えて、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語のうちから一つを試験場において選択することができる。 (注) 英語試験の一部分に聞き取り試験を行う。(30分程度)</p> <p>(理科各類)</p> <p>数学 数I, 数II, 数III, 数A, 数B (数列, ベクトル), 数C (行列とその応用, 式と曲線)</p> <p>理科 物I・物II, 化I・化II, 生I・生II, 地学I・地学IIから2科目</p>
出願期間	第1種 平成22(2010)年12月1日(水)から12月8日(水)まで 第2種 平成22(2010)年11月1日(月)から11月9日(火)まで
選抜期日	第1種 平成23(2011)年2月25日(金), 3月17日(木) 第2種 平成23(2011)年2月25日(金)・26日(土), 3月17日(木)
合格発表日	平成23(2011)年3月23日(水)
その他	<p>「平成23(2011)年度外国学校卒業学生募集要項」は、以下の方法で交付中である。</p> <p>(1) Webサイトからダウンロード 「特別選考の概要」<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01_02_04_j.html">http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01_02_04_j.html</a></p> <p>(2) 「入学者募集要項等の請求方法」(裏表紙) (1) ~ (3) の請求方法</p> <p>(3) 大学に直接訪問して受領 交付場所 本郷キャンパス正門・赤門・広報センター (龍岡門), 駒場Iキャンパス正門</p>

## お知らせ

### 情報基盤センター

#### 第72回コンピュータ・ネットワーク利用セミナー 「Digital Contents Creation—手軽にスライド ショーとBGMを作ろう—」開催のお知らせ

情報基盤センターでは、本学の教職員及び学生等を対象として、コンピュータ・ネットワークの利用に関する講義や本センターで提供しているサービスの紹介等、毎回様々なテーマで講習会を開催しています。

今回は、主に教育用計算機システム ECCS の利用者を対象に、以下のとおり開催しますので、ご参加ください。

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

日 時：

10月5日（火）14：00～16：00

会 場：

駒場キャンパス 情報教育棟 3F 中演習室 3（E38）

定 員：

約50名

概 要：

ECCS2008のiMac端末に標準でインストールされているアプリケーション“iPhoto”と“GarageBand”を利用して、スライドショーとBGMをハンズオン形式で制作します。

複数のスタッフがサポートしますので、初めての方も安心して参加できます。当日は、思い出の写真などを入れたUSBメモリを持参してください。

また、ECCSの端末を使用しますので、ログインできることを事前に確認してください。

講 師：

アップルジャパン（株）文教営業本部 澤 綾子 氏

参加費：

無料

参加申込み：

以下の参加申込みページからお申し込みください。

（資料等の準備の都合がありますので、事前に参加申込みをお願いします。）

[http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/072\\_20101005/](http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/Seminar/072_20101005/)

（問い合わせ先）

情報基盤センターコンピュータ・ネットワーク利用  
セミナー担当

E-mail:seminar-jimu \* itc.u-tokyo.ac.jp

(\*は@に置き換えて入力してください。)

## お知らせ

### 本部最先端研究開発支援課

#### 「最先端研究開発支援プログラム」のホームページを公開しました！

平成21年度にスタートした「最先端研究開発支援プログラム（FIRST）」のうち、本学が研究支援担当機関となっている5つの課題を中心に最新情報を紹介していくホームページを作成し公開しましたので、是非ご覧ください。

#### 【5つの課題の中心研究者】

- ・喜連川 優（生産技術研究所）
- ・永井 良三（大学院医学系研究科）
- ・中須賀 真一（大学院工学系研究科）
- ・水野 哲孝（大学院工学系研究科）
- ・村山 斉（数物連携宇宙研究機構）

「最先端研究開発支援プログラム（FIRST = Funding Program for World-Leading Innovative R&D on Science and Technology の略称）」は、世界のトップを目指した先端的研究を推進し、様々な面での我が国の中長期的な国際競争力、底力の強化を図る目的で、平成21年度補正予算で国が創設したもので、その研究開発成果は、国民及び社会への確かな還元を目的としています。

（最先端研究開発支援プログラムホームページ）

[http://www.u-tokyo.ac.jp/first/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/first/index_j.html)

本学トップページ右下のバナーからもアクセスしていただけます。

**最先端研究開発  
支援プログラム**

トップページ右下のバナー

## 人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
22.7.15	菊池 かな子	大学院医学系研究科准教授	
22.7.31	阿部 修	大学院医学系研究科准教授	
22.7.31	BRAUN RICHARD ANTON	大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター教授	
（採 用）			
22.7.16	劉 海江	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科特任助教
22.7.23	大内 正己	宇宙線研究所准教授	
22.8.1	山田 育穂	空間情報科学研究センター准教授	
22.8.1	石川 ひろの	大学院医学系研究科准教授	滋賀医科大学医学部准教授
22.8.1	吉川 健	生産技術研究所附属サステイナブル材料国際研究センター准教授	大阪大学大学院工学研究科助教
（昇 任）			
22.7.16	太田 匡彦	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科准教授
22.7.16	芋生 憲司	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科准教授
22.7.16	大西 康夫	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科准教授
22.7.16	斎藤 馨	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科准教授
22.7.16	米田 美佐子	医科学研究所附属実験動物研究施設准教授	医科学研究所附属実験動物研究施設助教
22.7.16	今西 祐一	地震研究所准教授	大気海洋研究所助教
22.8.1	喜多村 和郎	大学院医学系研究科准教授	大学院医学系研究科助教
22.8.1	國松 聡	大学院医学系研究科准教授	大学院医学系研究科講師
22.8.1	唐澤 かおり	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科准教授
22.8.1	早乙女 雅博	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科准教授
22.8.1	白波瀬 佐和子	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科准教授
22.8.1	荒木 徹也	大学院農学生命科学研究科准教授	大学院農学生命科学研究科講師
22.8.1	田近 英一	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院理学系研究科准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。



# 「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

## 作成例

本部広報課

「キャンパスツアー」スタート！

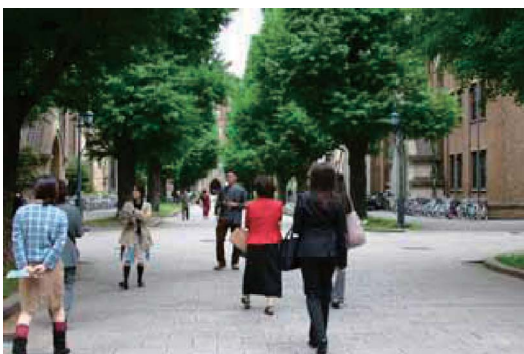
本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける。写真は3枚程度まで
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)

句読点は「、」「。」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

## 提出上の注意

### 1. 提出方法

記事は、各部局の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。  
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

### 2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

### 問い合わせ先・提出先

本部広報課広報企画チーム  
内線 22031

E-mail: [kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp)

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、その際はお問合せ願います。

# Contents

## 特集

- 02 安全なフィールドワークのために～野外活動における安全衛生管理・事故防止指針 第2版発行！～  
08 オープンキャンパス2010

## NEWS

- 11 江崎玲於奈賞受賞  
一般ニュース
- 11 本部学生支援課  
軟式野球部、東京六大学春季リーグ戦二連覇達成
- 12 本部国際企画課  
「第7回プレジデント・カウンシル本会議」の開催
- 13 地球観測データ統融合連携研究機構 (EDITORIA)  
第12回日本水大賞国際貢献賞を受賞
- 13 海洋アライアンス  
海洋アライアンスと(財)環日本海環境協力センターとのインターンシップ協定締結
- 14 本部環境安全課  
「安全講演会」、開催される
- 15 本部環境安全課  
「総長による安全衛生パトロール」実施される
- 15 地球観測データ統融合連携研究機構 (EDITORIA)  
第4回「データ統合・解析システム」(DIAS)フォーラムを開催

## 部局ニュース

- 17 生産技術研究所  
省エネ型都市交通システム「エコライド」第二次試験車両及び実験線御披露目式を挙行
- 17 大学院総合文化研究科・教養学部  
国際センター駒場オフィス開所式典が挙行される
- 18 医科学研究所  
「第17回東アジアシンポジウム (in 台北)」に参加
- 18 大学院理学系研究科・理学部  
南米チリの首都サンチャゴにて東京大学 miniTAO 望遠鏡完成記念式典を開催
- 19 大学院工学系研究科・工学部  
山崎直子宇宙飛行士の「帰地球」報告会が開催される
- 20 史料編纂所  
イェール大学より、「古文書屏風」が76年ぶりの里帰り

## コラム

- 22 PCリユースのわ 第10回  
22 インタープリターズ・バイブル vol.37  
23 ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No.2  
24 Crossroad 産学連携本部だより vol.57  
25 コミュニケーションセンターだより No.68  
25 Relay Column「ワタシのオシゴト」第54回  
26 FOREST NOW 行動シナリオの「今」をレポート

## ◆表紙写真◆

オープンキャンパス風景 (8ページに関連記事)

## INFORMATION

### 募集

- 27 大学院人文社会系研究科・文学部  
平成23(2011)年度 大学院人文社会系研究科入学試験日程を発表

### お知らせ

- 27 情報基盤センター  
9月限定「国内の法令・判例を検索するには？」ほか「情報探索ガイダンス」各種コース実施のお知らせ
- 28 情報基盤センター  
次期教育用計算機システムに関する公聴会のお知らせ
- 29 情報基盤センター  
「秘書さん向け“はじめての論文の探し方”ガイダンス」in 柏キャンパス
- 29 大学院工学系研究科・工学部  
「第25回東京大学工学部・工学系研究科技術発表会」開催のお知らせ
- 30 本部入試課  
各種選抜要項・募集要項等の配布のお知らせ
- 36 情報基盤センター  
第72回コンピュータ・ネットワーク利用セミナー「Digital Contents Creation—手軽にスライドショーとBGMを作ろう—」開催のお知らせ
- 36 本部最先端研究開発支援課  
「最先端研究開発支援プログラム」のホームページを公開しました！

## 事務連絡

- 37 人事異動(教員)

## 淡青評論

- 40 学問の寄席

## 編集後記

数か月ぶりに学内広報を担当することになりました(と)です。今月号の特集のテーマは「安全なフィールドワーク」でした。大学での野外活動だけでなく、プライベートで海や山へ行く際も、事故には気をつけましょうね。広報課の夏の野外活動は、オープンキャンパスです。私は蚊に刺されやすい体質なのか、今年も派手にやられました。みなさん、ハチやマムシだけではなく、蚊にも注意！(と)



七徳堂鬼瓦

## 学問の寄席

学問のキセキ、ではなく、ヨセと読んでいただきたい。御存知のように、寄席とは、落語や漫才、講談、曲芸などの芸人が次々と登場して、芸能を披露するところである。寄席のいいところは、おもしろいという点はもちろんだが、いろいろな芸を楽しめるところである。落語家は、それぞれ自分の前に出たはなしと重ならないように演目に配慮するので、長時間聞いていても飽きることがない。また、落語がいくつか続いたあとに、「色物」とよばれる漫才やほかの芸がはさまり、全体として絶妙の

バランスがたもたれている。聞く側は、多種多彩な芸のなかで、どれかひとつは必ず気に入った出し物に出会えるという感じである。

ところで、東京大学の強みは、多種多彩な学問分野をカバーしている、ということである。ただ、あまりに組織の規模が大きすぎるため、お隣の部局ですら、どんなところかを知ることがむずかしい。専門分野が離れすぎてしまうと、その分野の内容を知るとはまずないといってよいが、それではあまりにもったいない。いっそのこと、寄席形式の講演会を企画してはどうだろうか。統一のテーマはもうけず、むしろできるだけバラバラの分野の人に次々と登場してもらい、自分の分野の内容をわかりやすくはなしてもらおうのである。肩の力を抜いて聞くなかで、意外なヒントが得られるかもしれない。まだ自分の進路を決めかねている学生に、学問のおもしろさを知ってもらうこともできるかもしれない。

「一番聞きたい授業」ではないが、学生自身に番組を組ませるのはどうだろうか。評判がよかったら、よその地域への「出前寄席」もいいかな・・・。

まあ、あれこれ想像はしてみるのだが、こんな乱暴な企画が実現したら、それこそキセキである。くだらないことをいうのはヨセ、と叱られそうなので、このへんで失礼を。

高橋慎一郎（史料編纂所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1402 2010年8月25日  
東京大学広報室

〒113-8654  
東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学本部広報課  
TEL：03-3811-3393  
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
<http://www.u-tokyo.ac.jp/>